



Kyushu FG

# 会社説明会

2026年5月25日

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

東証プライム上場 証券コード：7180



本日のサマリー	— P.3	経費・与信費用コントロール	— P.19	Ⅲ 第4次グループ中期経営計画「躍進」
Ⅰ 企業価値向上に向けた取り組み		政策保有株式の縮減	— P.20	(APPENDIX)
グループ理念体系	— P.5	株主還元	— P.21	第4次グループ中期経営計画の概要
2030年に目指す「共創ビジョン」	— P.6	Ⅱ 2026年3月期 決算概要		【基本戦略1】
第4次グループ中期経営計画の実績	— P.7	決算概況	— P.23	地域経済の成長に向けたコア事業の強化
地域価値共創事業の取り組み	— P.8	当期純利益の増減要因	— P.24	【基本戦略2】
人的資本投資	— P.9	資金利益	— P.25	未来を創る地域価値提供の取り組み加速
投資家目線に合致する報酬制度への改定	— P.10	貸出金	— P.26	【基本戦略3】
サステナビリティの取り組み	— P.11	総預金	— P.27	持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立
DXへの取り組み	— P.12	有価証券	— P.28	Ⅳ 計数資料 (APPENDIX)
PBR改善ロジックツリー	— P.13	円債・外債の状況	— P.29	
当社グループの目指す姿	— P.14	役務取引等利益	— P.30	
貸出戦略	— P.15	経費	— P.31	
半導体関連産業への取り組み	— P.16	与信費用と金融再生法開示債権	— P.32	
預金戦略	— P.17	自己資本比率	— P.33	
リスクアセットコントロール	— P.18	業績予想	— P.34	

## 企業価値向上に向けた取り組み ～ 地域の課題解決を収益と成長に変えROE・PER向上 ～

### 地域価値共創グループへの進化

- ・ 南九州3県GDPは16.9兆円で計画を上回り、地域の持続的成長に貢献
- ・ 人的資本、サステナビリティ、DX領域への成長投資を着実に実践

### 資本コストや株価を意識した経営

- ・ 次期中計 ROE 9.0%程度を目指し、2027年3月期 ROE 6.0%、当期純利益450億円計画
- ・ 配当性向は35%を目安へ引き上げ、2026年度 自己株式取得120億円の実施を決定

## 2026年3月期 決算

～ 2021年度以来 5期連続増収増益、過去最高益を更新 ～

- ・ 業務粗利益1,299億円 当期純利益376億円 実質過去最高益を達成
- ・ ROEは5.4%（株主資本ベース）、5.1%（純資産ベース）に上昇



Kyushu FG

# I 企業価値向上に向けた取り組み

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



## パーパス (存在意義)

*Purpose*

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、  
お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を育て、守り、引き継ぐ  
ことで、地域の未来を創造していく為に存在しています

## ビジョン (目指す姿)

*Vision*

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造  
する『地域価値共創グループ』への進化

## バリュー (価値観、行動指針)

*Value*

誠実—— 高い倫理観を持って行動する  
主体性—— 自ら考え、失敗を恐れずに行動する  
チームKFG—— 志を一つに、グループの最適を考えて行動する

# 2. 2030年に目指す「共創ビジョン」

**2030年度  
(共創ビジョン)**

36%  
180億円

## 第4次グループ中期経営計画『躍進』

グループ会社等

14%  
43億円

**2024年度(実績)**

地域価値共創事業	事業開発部門	九州デジタルソリューションズ ▲0億円
	九州みらいCreation ▲1億円	
金融部門	銀行以外の	グループ会社(リース・カード他) 20億円
	九州FG証券 2億円	
銀行部門(預り・ソリューション) 23億円		

86%  
260億円

預り、法人ソリューションを除く

連結当期純利益 303億円

銀行

13%  
46億円

**2025年度(実績)**

地域価値共創事業	事業開発部門	人材(紹介・派遣・教育)リサーチ&コンサル 5億円
	九州デジタルソリューションズ 2億円	
	九州みらいCreation ▲1億円	
金融部門	銀行以外の	グループ会社(リース・カード他) 14億円
	九州FG証券 3億円	
銀行部門(預り・ソリューション) 24億円		

88%  
330億円

預り、法人ソリューションを除く

376億円

銀行

16%  
70億円

**2026年度(計画)**

地域価値共創事業	事業開発部門	人材(紹介・派遣・教育)リサーチ&コンサル 6億円
	九州デジタルソリューションズ 2億円	
	九州みらいCreation	
	新規事業	
金融部門	銀行以外の	グループ会社(リース・カード他) 21億円
	九州FG証券 6億円	
銀行部門(預り・ソリューション) 34億円		

84%  
380億円

預り、法人ソリューションを除く

450億円

銀行

2030年共創ビジョン  
当期純利益500億円

次期中計で前倒し  
達成見込み

2030年共創ビジョンは、  
次期中計策定に合わせ  
見直し予定

64%  
320億円

預り、法人ソリューションを除く

500億円

銀行

### 3. 第4次グループ中期経営計画の実績

地域・お客様・従業員の領域で、概ねKPIを達成し地域の持続的成長に貢献

#### 【KPI達成状況】

		2024年度 実績	2025年度			第4次中計に おける 2026年度 計画
			計画	実績	評価	
南九州3県GDP	兆円	16.4	16.4	16.9	😊	16.6
地域価値共創事業収益額	億円	43.8	56.0	46.0	😞	70.0
預り資産残高（九州FG証券）	億円	3,837	4,300	4,841	😊	5,300
投信評価損益率（九州FG証券）	%	10.6	4.0	19.9	😊	14.4
CO2排出量（2019年度比）	%	▲14.0	▲13.0	▲14.8	😊	▲20.0
ESG投融资累計実行額	億円	6,150	7,000	9,021	😊	8,500
エンゲージメント総合スコア	ポイント	74	74	76	😊	75

## サステナビリティ優先課題を起点に、新規事業への積極投資や外部連携に取り組む

### サステナビリティ優先課題

### 解決に向けた取り組み

#### 雇用

人材・労働力の確保

- 人材紹介、人材派遣
- ビジネスマッチング支援
- スタートアップ支援
- 多様な人材確保

#### 健康と福祉

少子高齢化社会への対応

- 事業承継
- M&A
- ライフプランコンサルティング

#### 経済

地域経済の持続的成長

- 地域商社
- **海外ビジネス支援**
- 電子デバイス関連サプライチェーン 参入支援

#### 気候

気候変動対策

- ESG投融資
- SDGsコンサルティング
- **地域の脱炭素支援**
- **カーボンニュートラル推進**

#### 人権・多様性

人権と多様性の尊重

- ダイバーシティ経営推進
- 人材ポートフォリオ構築
- 女性活躍推進 ● キャリア形成支援
- 従業員エンゲージメント向上

#### DX

デジタル社会の形成

- **地域DX支援**
- **業務プロセスDX化**
- **デジタル基盤強化**

### 地域価値向上への取り組み

肥後銀行

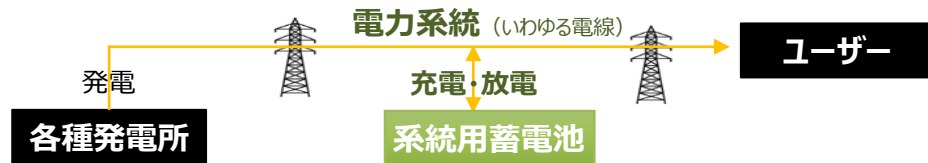
2026.2発表

### KSエナジーによる脱炭素社会の構築に向けた取り組み

- 熊本県内にて大型の**系統用蓄電池事業**開始を検討
- 電力系統安定化と再エネ好循環促進により、**地域の脱炭素社会実現と中長期的なレジリエンス強化**に貢献

### 系統用蓄電池事業

電力系統（送電・配電網）に接続して充電・放電を行う大型蓄電池を用いて、主に電力の需要と供給のバランスを保つ「調整力」を供出する事業



### デジタル分野連携と海外進出支援

KFG

2026.3締結

### ベトナムIT企業「FPTジャパンホールディングス」と基本合意

- 当グループのソフトウェア開発力の強化・IT人材交流
- 取引先企業のベトナム進出や販路拡大支援

## 賃上げ・エンゲージメント向上・健康経営の推進により、人的資本への投資を強化

### 賃上げ・初任給改定

- 4年連続で定期昇給およびベースアップによる5%以上の賃上げ方針（2026年度）を決定。初任給についても、2027年4月引上げ予定

(単位：円)	2026年度 賃上げ率	2022年 4月	2023年 4月	2024年 4月	2025年 4月	2026年 4月	2027年 4月
KFG	約5.0%	250,500	270,000	280,000	300,000	310,000	325,000
肥後銀行	約6.0%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000	285,000
鹿児島銀行	約5.5%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000	285,000

### 健康経営の取組み強化

- 従業員の活力向上や生産性向上を通じて、組織の活性化・企業価値の向上、持続的な成長を実現するため両銀行において、健康経営に取組中

### 健康経営度調査 総合評価（2025年度）

肥後銀行

ホワイト500認定

67.0pt/56.6pt(全国平均)

16位 /4,175社 地銀セクターで4位

### 【今後の健康経営強化に向けた取組み】

KFG

中小企業法人部門ブライツ500認定を通じ、健康経営の取組みを強化

肥後銀行

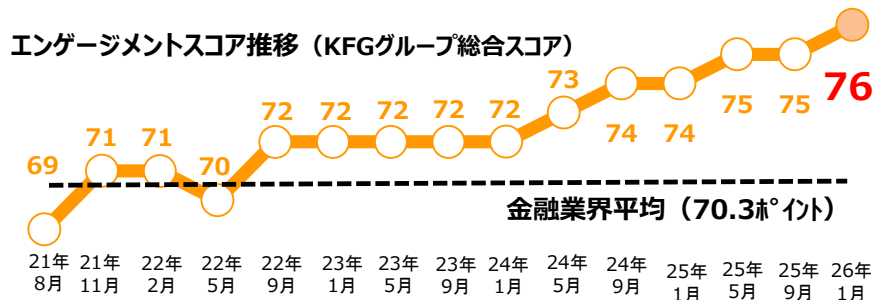
グループおよび地域における健康経営の高度化を牽引

鹿児島銀行

グループ内研鑽を通じて健康経営の取組みを一段と引き上げ

### 業界平均を上回るエンゲージメント

従業員のエンゲージメント調査スコアは、グループ全体で**76ポイント**  
→ 金融業界平均70.3ポイントを上回り良好



※エンゲージメントサーベイ「Wevox」利用 業界平均は、アトラエ社調べ

## 業績向上に向けた役員・従業員の一体感のある業績連動報酬へ

### 役員報酬制度改定

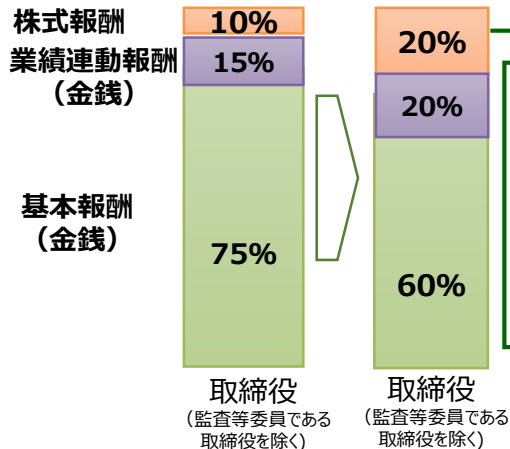
#### 【目的】

- ・役員報酬と株式価値との連動性を明確化することで、中長期的な業績向上と企業価値の増大に関する意識を一層高めるため

#### 【改定概要】

- ・役員報酬の業績連動部分の割合の増加
- ・株式報酬制度を業績連動型に改定
- ・財務・非財務の評価指標導入

現行      改定後



#### 株式報酬に評価指標導入

##### 【財務指標】

- ・連結ROE

##### 【非財務指標】

- ・従業員エンゲージメントスコア
- ・サステナビリティ外部評価

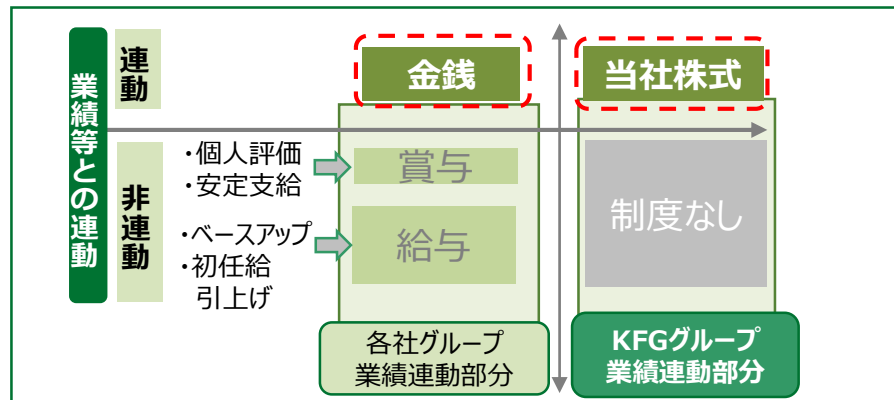
### 従業員向け業績連動報酬の導入検討開始

#### 【目的】

- ・株価や業績などの経営成果への意識強化のため

#### 【制度概要】

支給物	金銭	当社株式
連動する K P I	・各社グループ連結当期純利益	・KFG連結当期純利益
効果	・会社業績に対する意識向上	・株価への関心向上



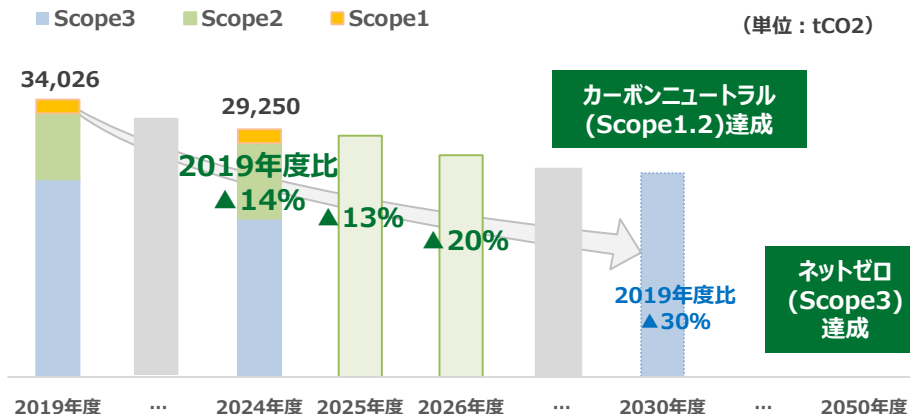
## 脱炭素の着実な実行とサステナビリティ外部評価向上で、持続可能な地域・社会の実現を推進

### 2050年ネットゼロに向けた取り組み

- 移行計画に基づき、電力使用量の削減や再エネプランへの見直しなど削減への取り組みを実施




2030年度 **カーボンニュートラル (Scope1.2)** 達成

投融資ポートフォリオを含めたサプライチェーン全体GHG排出量  
2050年 **ネットゼロ**



### サステナビリティ外部評価のスコア向上

- サステナビリティ関連外部評価に対するKPI・実績

	2025年度 計画	2025年 実績	計画比
CDP 	A- 以上	<b>A-</b>	<b>計画達成</b>
FTSE 	3.7 以上	<b>3.5</b>	計画未達
MSCI 	AA 以上	<b>A</b>	計画未達

- スコア改善に向けた取り組み課題

削減計画と戦略

- ①ポートフォリオ（融資先）に対する削減目標の設定（移行戦略）
- ②自社Scope1.2 年率4.2%削減目標の設定と開示

## KFG重要システム群の構築とAI活用推進を両輪に、グループのDXを加速

### KFG重要システム群の構築

- 戦略的にKFGデジタル統合基盤を先行構築
- 各システムの稼働に向けてオンスケジュールの状況

	2026年度上期						2026年度 下期以降
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
デジタル統合基盤	共同作業環境構築	デジタル統合基盤の順次構築				基盤拡張 業務系サービス マーケティング系 経営管理 ・サステナ系	・順次拡大
融資システム	肥後 移行準備、システム開発						・肥後 2028年度稼働予定
	鹿児島 システム開発、移行						・鹿児島 2027年度稼働予定
証券システム	費用・期間・リスク確認		第三者評価	機関決定	開発		・2028年度稼働予定
	計画策定						

### AI活用推進

#### AI専門部署を設立（2025年10月）

KFG AI統括室	・グループのAI化を戦略的に推進し、AI活用を統括
肥後・鹿児島 AIソリューショングループ	・AIを活用した業務プロセス改革、AIの内製化開発を担う

#### AIポリシー制定（2026年3月）

- ◆ グループ共通の基本的な取組方針として制定
- ◆ 人間中心・公平性・プライバシー保護等の原則を明確化
- ◆ 適切なリスク対応と積極活用によるイノベーション促進の両立

#### AI活用事例

肥後銀行

鹿児島銀行

- ◆ 生成AI活用による業務効率化
- ◆ 顧客面談内容をリアルタイムでテキスト化してCRMへ連携
- ◆ 金融商品販売のモニタリング強化
- ◆ 業務支援チャットボットの拡大

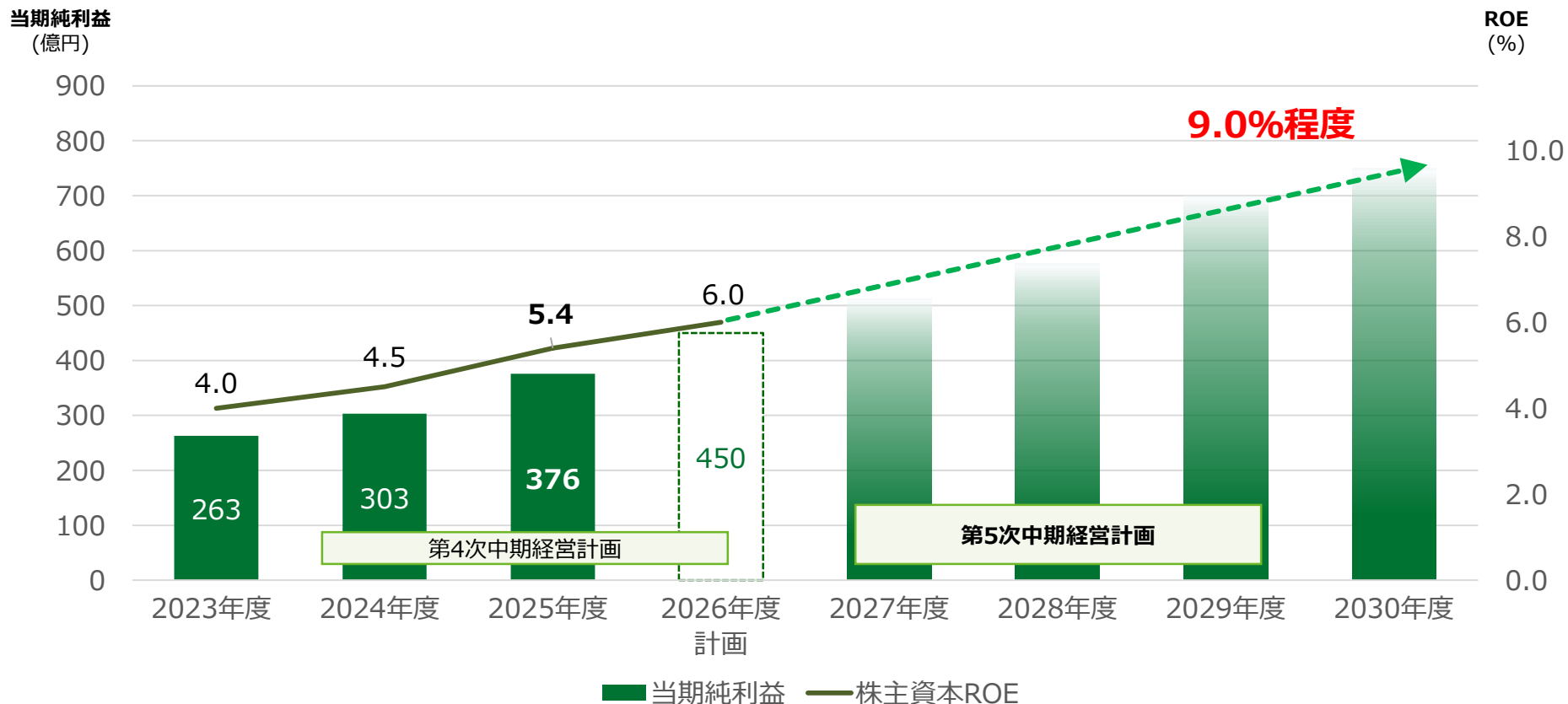
## 主要KPIで2025年度計画を概ね達成、2026年度ROE6.0%へ着実に前進

		主要KPI	25年度計画	25年度実績	評価	26年度計画		
<b>PBR</b> 25年度計画 <b>0.70倍</b> [25年度実績] <b>0.62倍</b>	<b>RORA改善</b>	<b>収益力強化</b> コア事業である法人貸出および個人ローンの増強	事業性貸出平残	41,700億円	42,000億円	😊	43,800億円	
			住宅ローン平残	27,400億円	27,360億円	😐	28,350億円	
			法人ソリューション等手数料	33億円	33億円	😊	38億円	
			預り資産関連手数料	43億円	47億円	😊	53億円	
		<b>コストコントロール</b>	経費コントロール	OHR	66.2%	66.2%	😊	60.0%
			与信費用コントロール	与信費用比率	0.04%程度	0.05%	😊	0.05%
		<b>リスクアセットコントロール</b>	自己資本比率 目標レンジ内コントロール	自己資本比率	10~11%	11.34%	😐	10%~11%
				リスクアセットの削減 (政策投資の削減)	政策保有株式(連結純資産に対する比率)	3年で2%台前半	2.4%	😊
		<b>資本の有効活用</b>	新規事業投資 (地域価値共創事業)	新規事業投資(累計額)	—	—	—	—
			<b>株主還元の充実</b>	業績連動型の配当	配当性向	30%程度	33.1% *3	😊
適時適切な自己株式取得	自己株式取得総還元性向	適時適切な取得		100億円 59.5%	😊	120億円 62.1%		
<b>PER向上</b>	<b>資本コスト抑制</b>	業績ボラティリティの改善	業績予想と純利益の乖離	±30%以内	😊	±30%以内		
		ESG評価の向上 サステナビリティ経営の実践	FTSE ESGスコア(ガバナンス)	銀行セクター世界平均以上	世界平均比▲0.3P	😐	銀行セクター世界平均以上	
	<b>期待成長率向上</b>	地域価値共創事業の強化	地域価値共創事業収益	56億円	46億円	😐	70億円	

\*1: 株主資本ベース  
 \*2: 純資産ベース  
 \*3: 創立10周年記念配当を含む

# 10. 当社グループの目指す姿（利益・ROE向上）

## 収益力強化と資本効率向上により、次期中計でROE9.0%程度を目指す



## エリア特性に応じたアプローチ強化により、地域成長を取り込む貸出ポートフォリオ構築

### 肥後銀行

半導体産業の集積を取り込む

総貸出 **4.8兆円** | 熊本県内シェア **50.3%**

- 1 事業性貸出：電子デバイス関連産業、ESG、M&A**
  - 電子デバイス関連産業やサプライチェーン・周辺開発への取り組みを強化
  - SDGsコンサルティングを起点としたESG融資強化
  - 事業承継・M&A専門会社による支援サービスの高度化・広域化
- 2 個人向け貸出（住宅ローン）**
  - TSMC熊本工場周辺への人口増加に伴う推進強化
  - ローンプラザの再構築による支援体制の充実
  - 顧客ニーズに合った商品改定や商品ラインナップの拡充

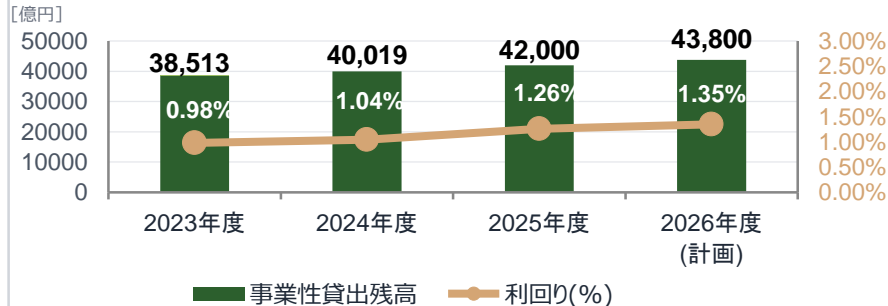
### 鹿児島銀行

農林水産業等の地場主要産業の資金需要獲得

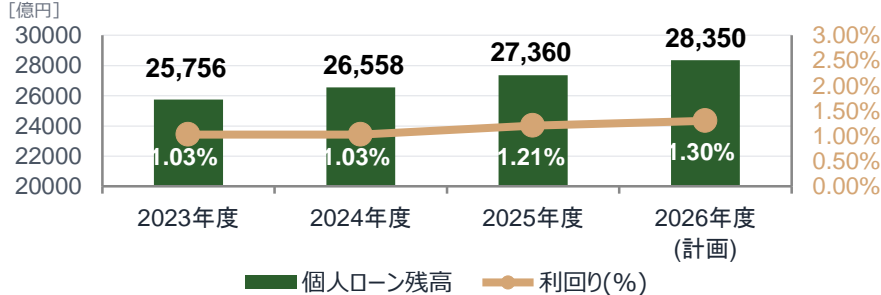
総貸出 **4.4兆円** | 鹿児島県内シェア **46.4%** | 宮崎県内シェア **15.6%**

- 1 事業性貸出：地場主要産業への支援強化**
  - 農林水産業などの地場主要産業の強化
  - 地場シェアの維持・向上
  - 貸出金の質の向上（利回り・SP改善）
- 2 個人向け貸出（住宅ローン）**
  - 住宅メーカーとの連携強化
  - 顧客ニーズに合った商品改定や商品ラインナップの拡充
  - 非対面ポータル等の導入による利便性向上

#### 法人貸出（事業性貸出）平残・利回り



#### 個人ローン（住宅ローン）平残・利回り



※総貸出は2026年3月末残高。マーケットシェアは2025年12月末時点（財務省向け貸出控除後）。2026年度は中期経営計画値。利回りは右軸（%）

## 半導体関連産業の集積を中心とする地域の成長サイクル促進と取り込み

### 肥後銀行 における電子デバイス産業への取組み状況

#### 1 半導体サプライチェーン参入支援

- ・地場企業のTier2・Tier3参入支援
- ・多岐にわたる業種に対応し、経済波及効果の最大化および裾野拡大

#### 2 台湾企業の進出支援

- ・台湾企業向けソリューション提供
- ・技術提携・協業商談会の実施（商談総数140件）

#### 3 地域不動産・インフラ需要対応

- ・地方公共団体との連携プロジェクト推進、750件超の不動産情報

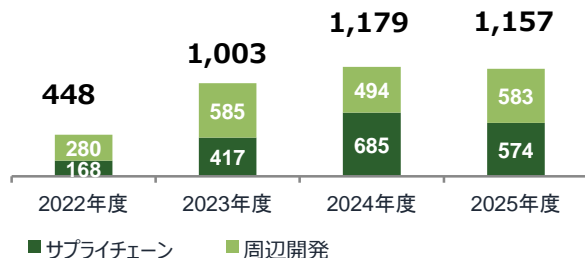
#### 4 電子デバイス産業支援のための連携

- ・Q-BASS連携、Rapidus出資、北洋銀行・大分銀行とのMOU締結

### 半導体関連産業への融資実績推移

4年間で**累計3,788億円**を実行

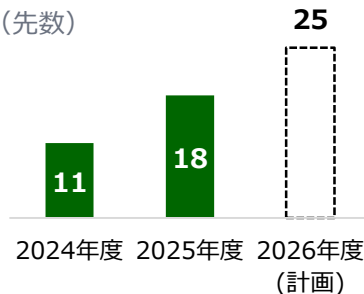
(億円)



### サプライチェーン参入支援企業数

**29社**を参入支援

(先数)



### 海外からの進出企業の状況

2026年3月末時点

#### 熊本への進出企業

**115社** (※)

#### 口座開設数

**67社**

(※) 肥後銀行調べ

#### 主要サプライチェーン業種

- ・ 材料・部材
  - ・ 製造装置 (含、部品製造加工)
  - ・ 物流・倉庫
  - ・ 保守・メンテナンス
  - ・ 治工具・消耗品
  - ・ その他サービス (※)
- ※ オフィス機器・清掃・セキュリティ・クリーニング・ファシリティ他

## 法人・個人のメイン口座獲得と基盤取引強化で粘着性預金を拡大

### 肥後銀行

総預金 5.7兆円 | 熊本県内シェア 45.9%

#### 1 個人預金戦略

##### ・若年層

→給振・決済等の生活口座確保、アプリの利便性訴求

##### ・高齢層・年金顧客

→年金等の基盤取引の獲得に注力

#### 2 法人預金戦略

- ・SDGs関連預金の商品開発
- ・半導体関連進出企業の預金獲得
- ・決済口座のメイン化推進

### 鹿児島銀行

総預金 5.0兆円 | 鹿児島県内シェア 50.8% | 宮崎県内シェア 5.1%

#### 1 個人預金戦略

##### ・若年・子育て層・共働き世代

→給与振込セット率向上、総資産営業推進、アプリの利便性訴求

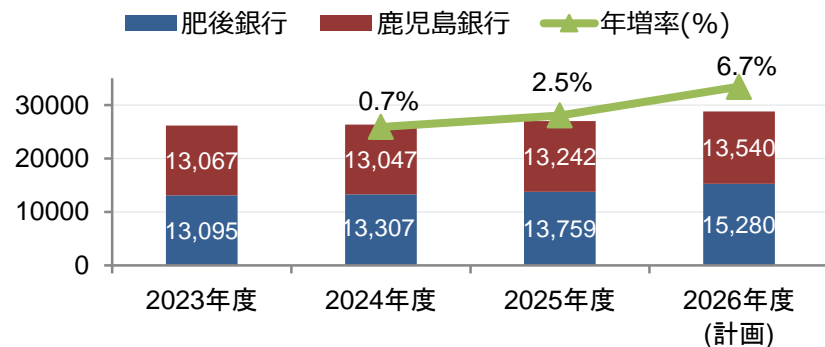
##### ・富裕層・高齢シニア世代

→年金セット率向上、資産形成／相続・信託ニーズの獲得

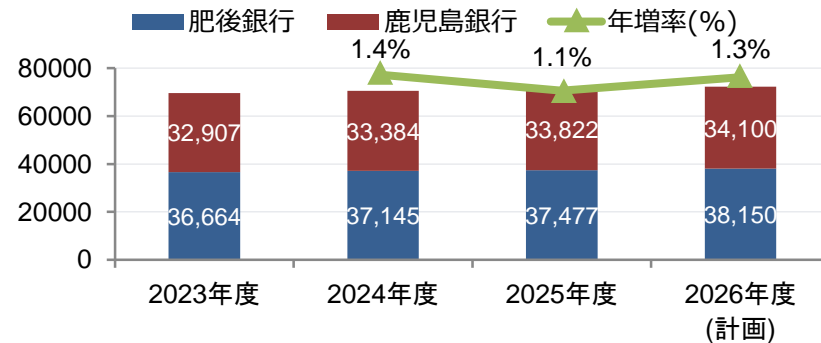
#### 2 法人預金戦略

- ・債務者預金推進、決済口座のメイン化、NCDの推進
- ・インターネットバンキングサービス一部無料化、機能拡充による利便性向上

法人預金 平残推移（2行合算） [億円]



個人預金 平残推移（2行合算） [億円]



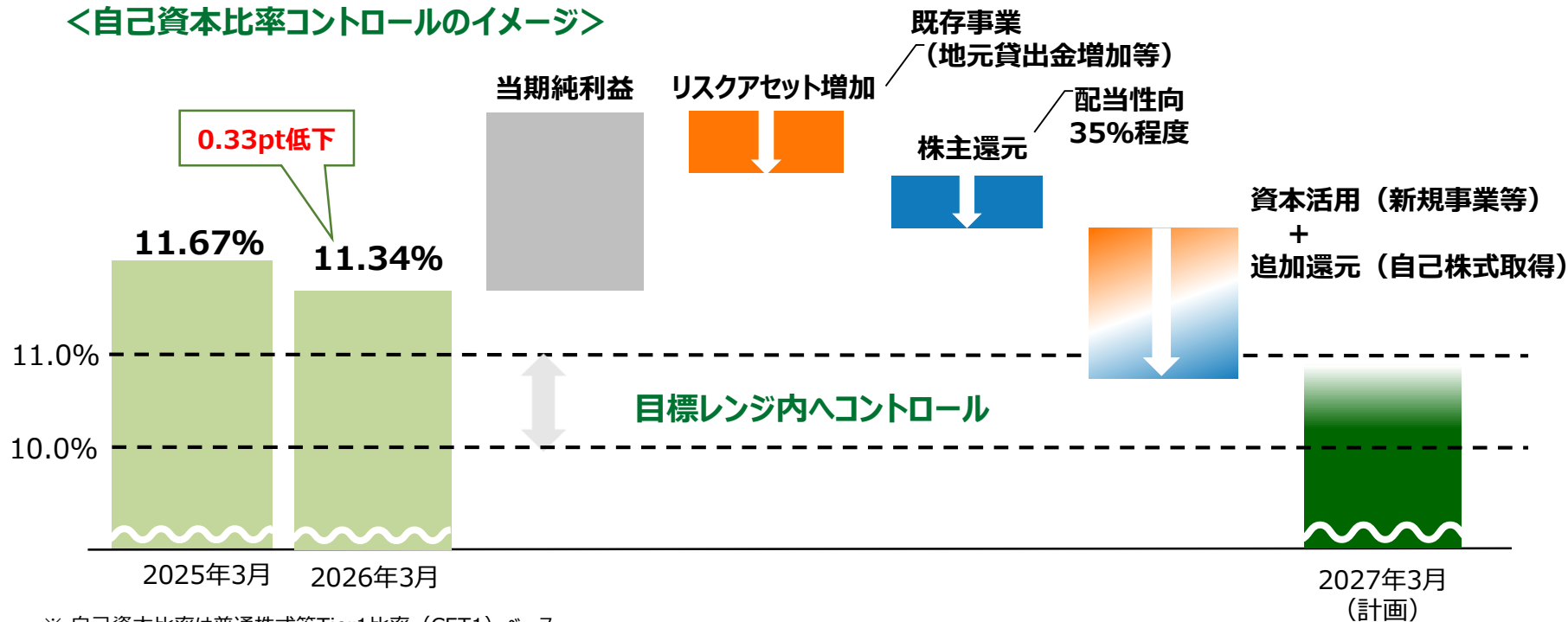
## 目標レンジへ向け、リスクアセット増加、成長投資、株主還元のバランスでコントロール

自己資本比率  
目標レンジ

10~11%

地震等の自然災害や予期せぬ事態でも地域社会へ安定した金融サービスを提供するための必要資本として設定

### <自己資本比率コントロールのイメージ>



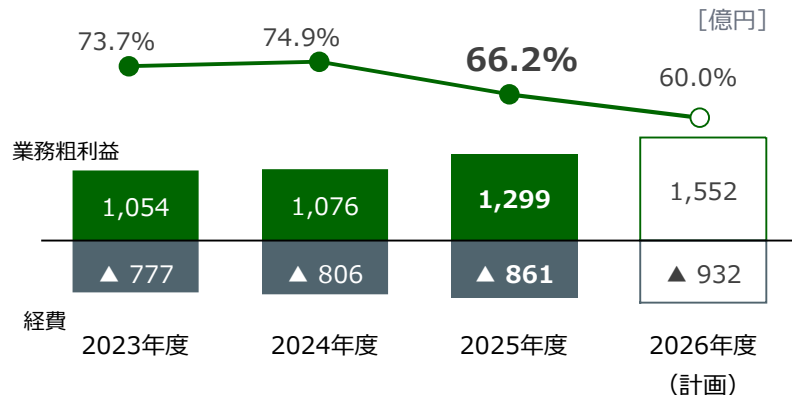
※ 自己資本比率は普通株式等Tier1比率 (CET1) ベース

## OHR改善と与信費用比率0.05%の安定的水準を維持



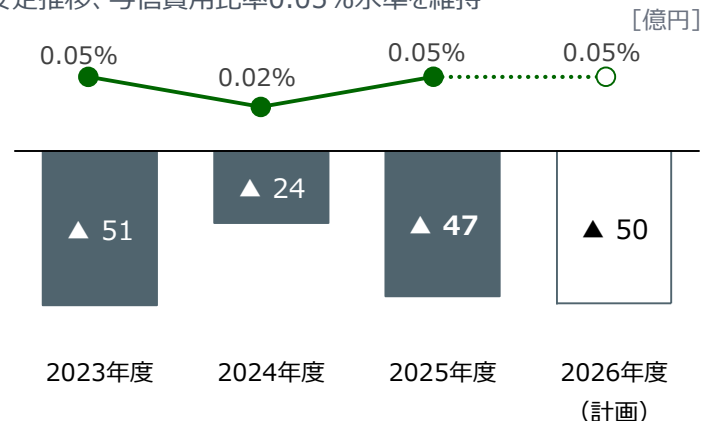
### OHR (連結ベース)

経費率は2025年度に大幅改善、2026年度計画は60.0%へ



### 与信費用 (連結ベース) ・与信費用比率

低位安定推移、与信費用比率0.05%水準を維持



※ OHR = 経費 / 業務粗利益 (連結ベース)、与信費用比率 = 与信費用 / 貸出金平均残高

## 政策保有株式は2%台前半まで継続縮減の方針

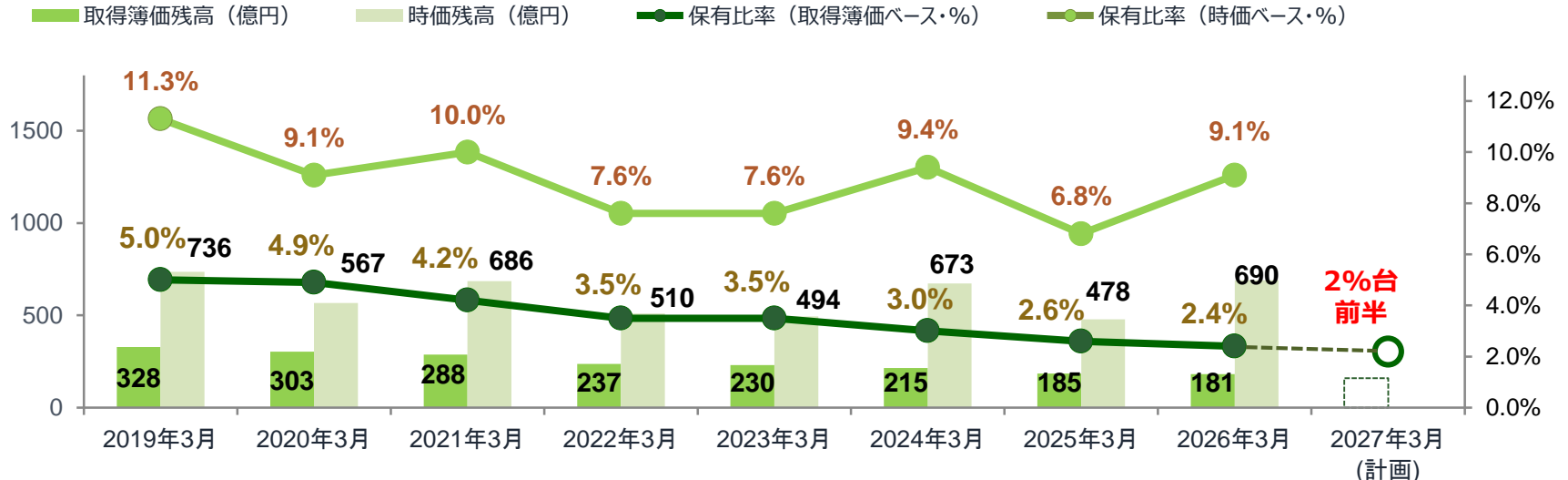
政策保有株式残高・保有比率 (2026年3月末)  
 取得簿価ベース 時価ベース  
**181** 億円、**2.4%** **690** 億円、**9.1%**

2027年3月末計画  
 (簿価ベース)  
**2%台** 前半

### 政策保有株式に関する基準

- |      |  |
|------|--|
| 定性評価 | ①情報・ノウハウ共有及び業務連携・提携等が可能<br>②地域経済活性化に資する<br>③企業価値・資産価値を著しく毀損しない |
| 定量評価 | 銘柄毎の収益率が、指標目標とする株主資本ROEを下回らないこと                                |

### 政策投資株式の推移 (上場のみ・2行合算)



※ 取得簿価ベース、上場銘柄のみ、肥後銀行・鹿児島銀行2行合算。保有比率 (取得簿価) = 取得簿価 / 純資産。保有比率 (時価) = 時価 / 純資産。2027/3末計画は取得簿価ベース。

## 配当性向の引き上げ、累進的配当導入、自己株取得により総還元性向62%予想

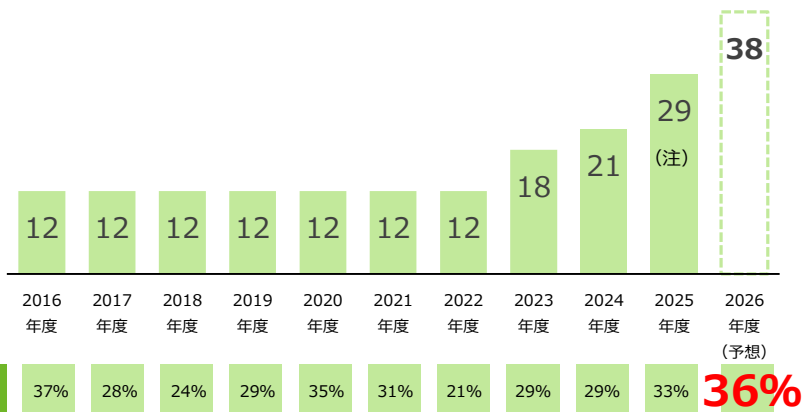
### 株主還元方針

- 累進的配当を基本としつつ、配当性向は35%を目安とする
- 自己株式の取得は、機動的な実施により、株主還元の充実を図る

2027年3月期より  
株主還元方針を変更

### 1株当たり配当金

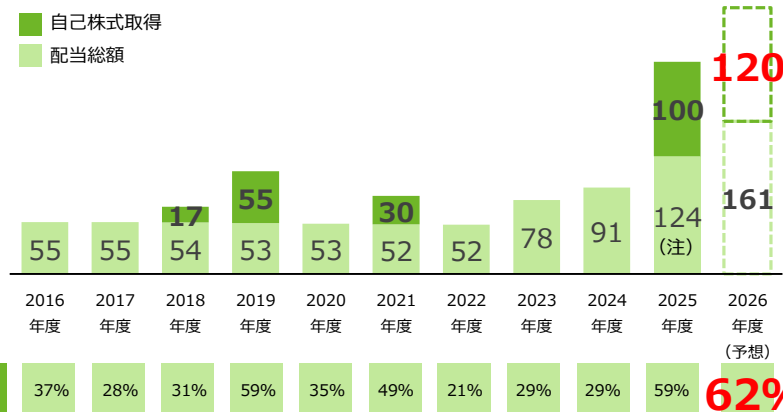
(単位：円)



(注) 創立10周年記念配当(年間2円)を含む

### 株主還元

(単位：億円)



(注) 2026年度予想 配当161億円+自己株取得120億円=総還元性向62%

### 自己株式取得の実績と計画

#### 2025年度 実績

取得期間 2025/10/17 ~ 2026/3/12 取得株数 9,399,900株  
取得金額 100億円 (上限100億円)

#### 2026年度 計画 (2026/5/14 適時開示)

取得期間 2026/6/1 ~ 2027/3/31 取得株数 上限 1,200万株  
取得金額 上限 120億円



Kyushu FG

## Ⅱ 2026年3月期 決算概要

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



# 1. 決算概況

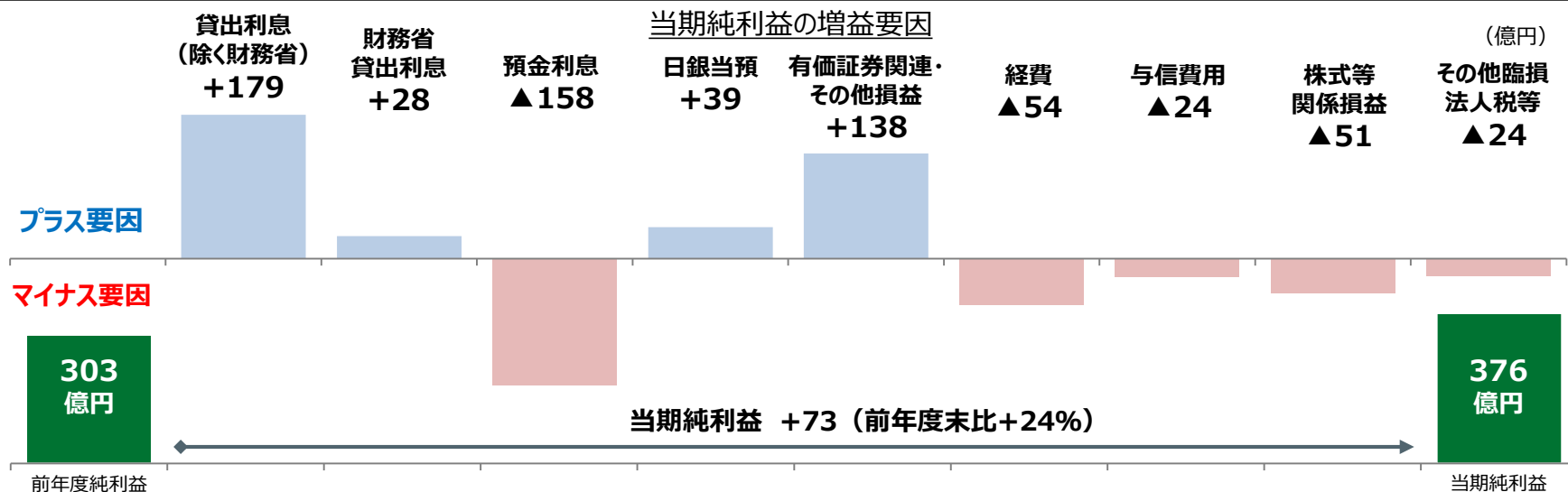
資金利益の増加やその他業務利益の改善が牽引し、前年比で増収増益・実質過去最高を更新

損益状況	KFG連結			2行合算		
	2025年度	前年比	2024年度	2025年度	前年比	2024年度
経常収益	2,632	119	2,512	2,180	99	2,080
業務粗利益	1,299	223	1,076	1,201	224	977
資金利益	1,133	96	1,037	1,147	103	1,043
役務取引等利益	182	8	174	153	5	148
その他業務利益	▲ 18	118	▲ 137	▲ 100	114	▲ 215
(うち国債等債権損益)	▲ 44	87	▲ 131	▲ 43	87	▲ 131
経費 (▲)	861	54	806	784	54	730
コア業務純益	483	81	401	460	82	378
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	22	17	4	23	13	9
業務純益	415	150	264	393	156	236
臨時損益	121	▲ 43	164	138	▲ 41	179
不良債権処理額 (▲)	25	6	19	21	2	18
貸倒引当金戻入益	-	-	-	-	▲ 6	6
株式等関係損益	111	▲ 51	163	128	▲ 45	173
経常利益	537	107	429	531	114	416
特別損益	1	3	▲ 2	▲ 1	0	▲ 1
当期純利益	376	73	303	373	75	298
(与信費用)	47	24	23	44	23	21

(億円)

## 2. 当期純利益の増減要因

預金利息が増加するも、利回り改善による貸出利息増加や  
有価証券関連・その他損益の増加により、前年比で増益



### <主なプラス要因>

- 貸出利息、財務省貸出利息 +207億円  
貸出金利回り +0.20%  
貸出金平残 +2,649億円
- 有価証券関連・その他 +138億円  
国債等損益+87、外貨関連費用等の減少他+40、  
役務利益+8、有価証券利息等+3

### <主なマイナス要因>

- 預金利息 (▲) 158億円 預金利回り+0.15%
- 経費 (▲) 54億円  
人件費+25 (ベースアップ等)  
物件費+25 (保守管理費6、周年事業4、広告宣伝費4 他)
- 与信費用 (▲) 24億円 (与信先の格付変動、前年度反動等)
- 株式等関係損益 ▲51億円 (前年多額の売却益を計上した反動)

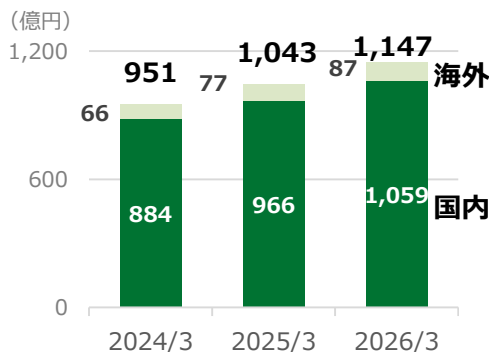
# 3. 資金利益

## 資金利益は、貸出金利息・有価証券利息の増加が寄与し前年比で増益

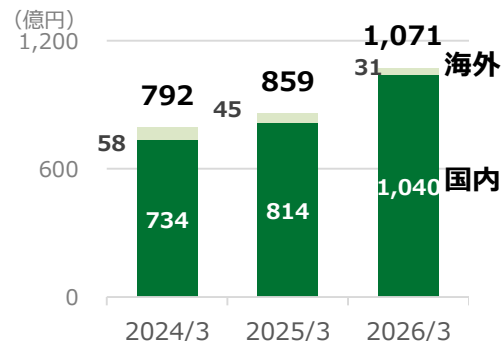
資金利益の状況（2行合算） (億円)

	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
資金利益	951	1,043	1,147	103
国内部門	884	966	1,059	93
うち貸出金利息	734	814	1,040	225
うち有価証券利息	144	186	174	▲ 12
うち資金調達コスト(▲)	23	88	255	167
国際部門	66	77	87	10
うち貸出金利息	58	45	31	▲ 13
うち有価証券利息	151	180	200	19
うち資金調達コスト等(▲)	143	149	145	▲ 4

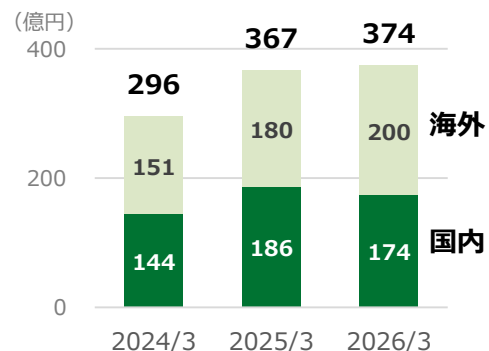
資金利益推移（2行合算）



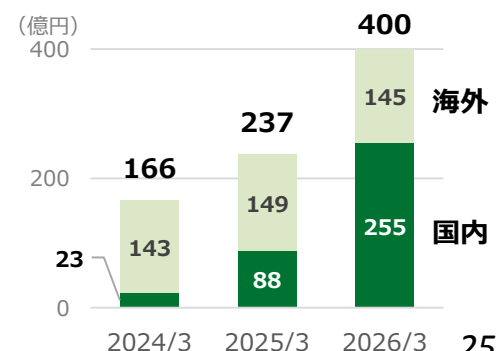
①貸出金利息推移（2行合算）



②有価証券利息推移（2行合算）

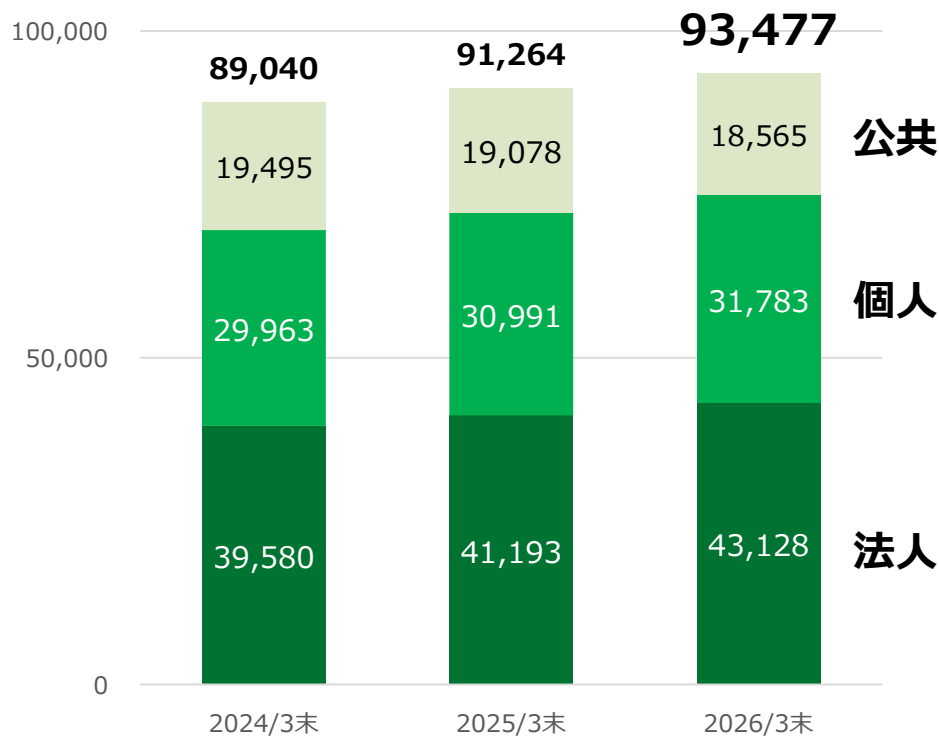


③資金調達コスト（2行合算）

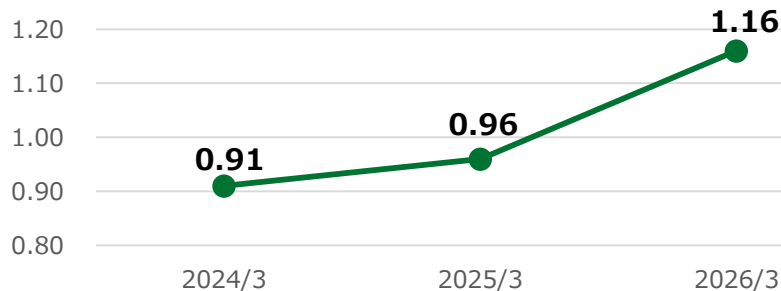


## 貸出残高は、法人および個人向けの貸出増加により伸長

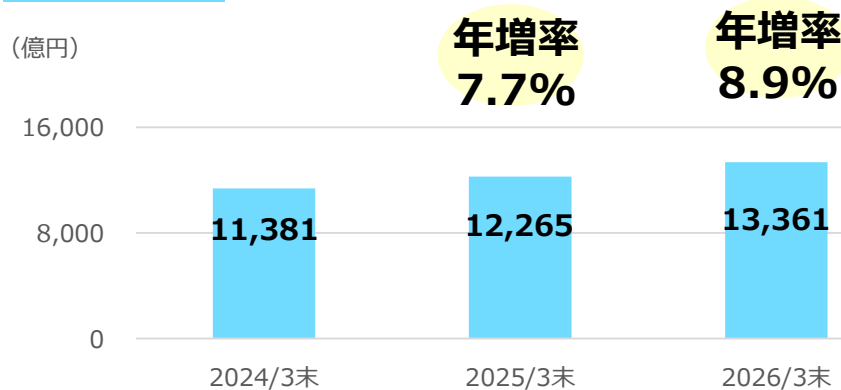
(億円) 貸出金残高の推移 (2行合算 残高)



(%) 貸出金利回りの推移 (2行合算)

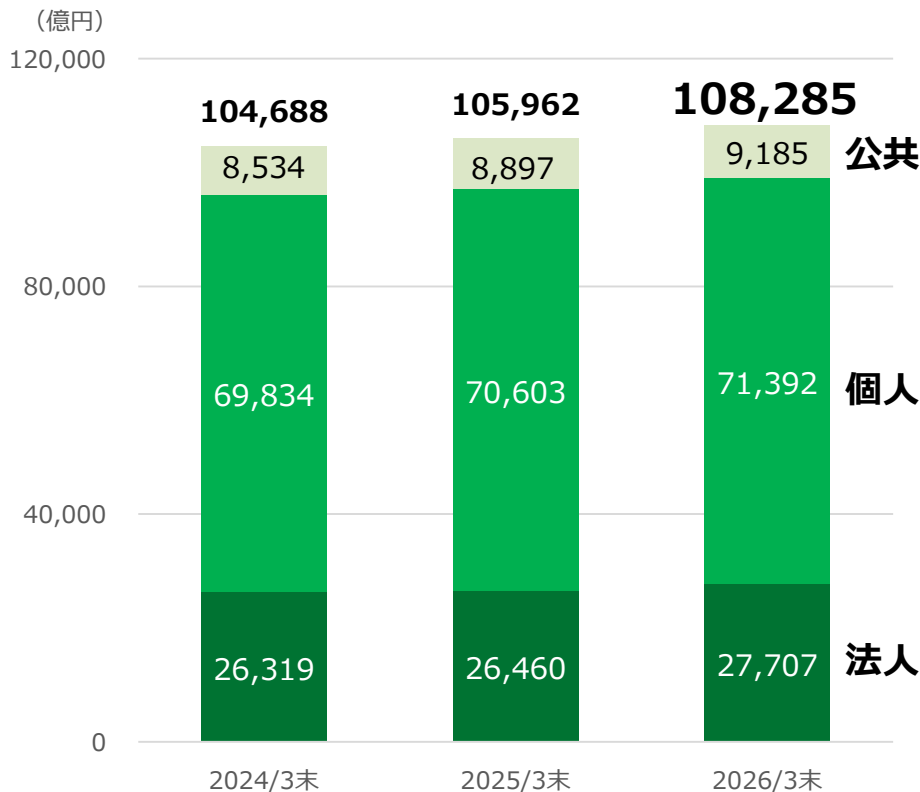


肥後銀行 熊本県内法人向け貸出金残高の推移 (残高)

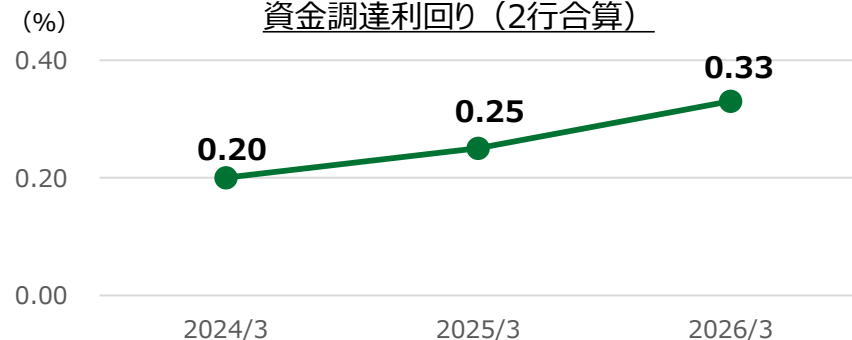


## 総預金残高は個人向け・法人向けともに堅調に増加

総預金残高の推移（2行合算 含むNCD）

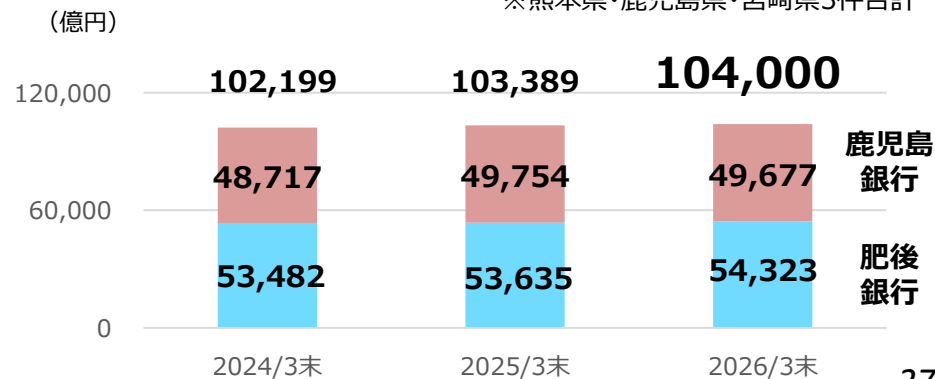


資金調達利回り（2行合算）



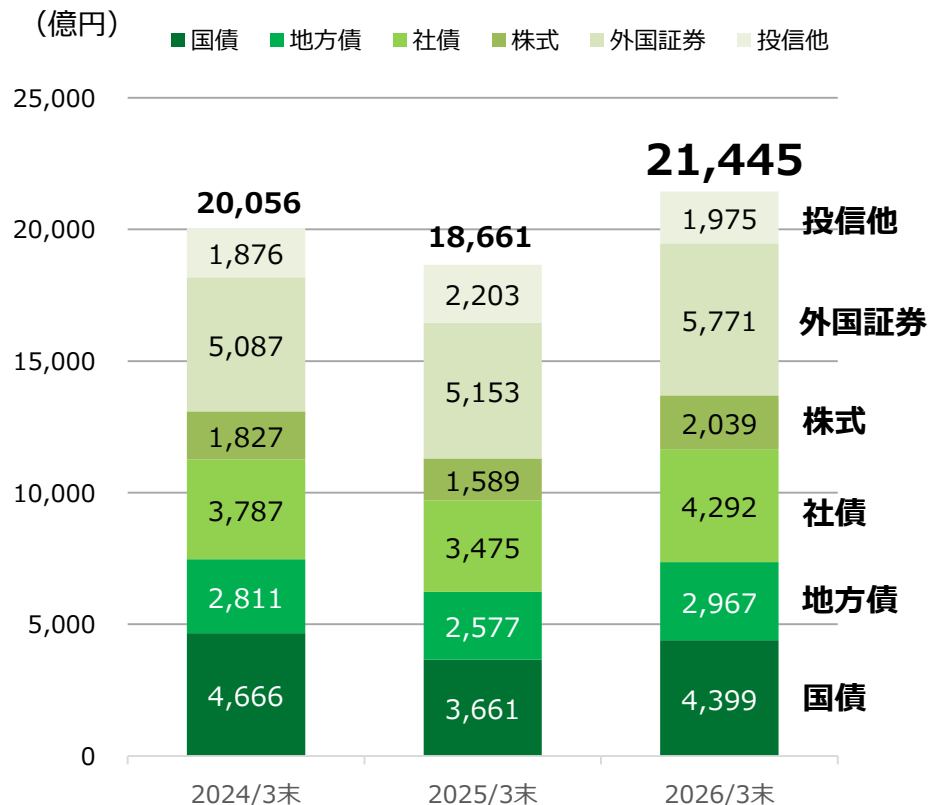
域内※総預金残高（銀行別 残高 含むNCD）

※熊本県・鹿児島県・宮崎県3件合計

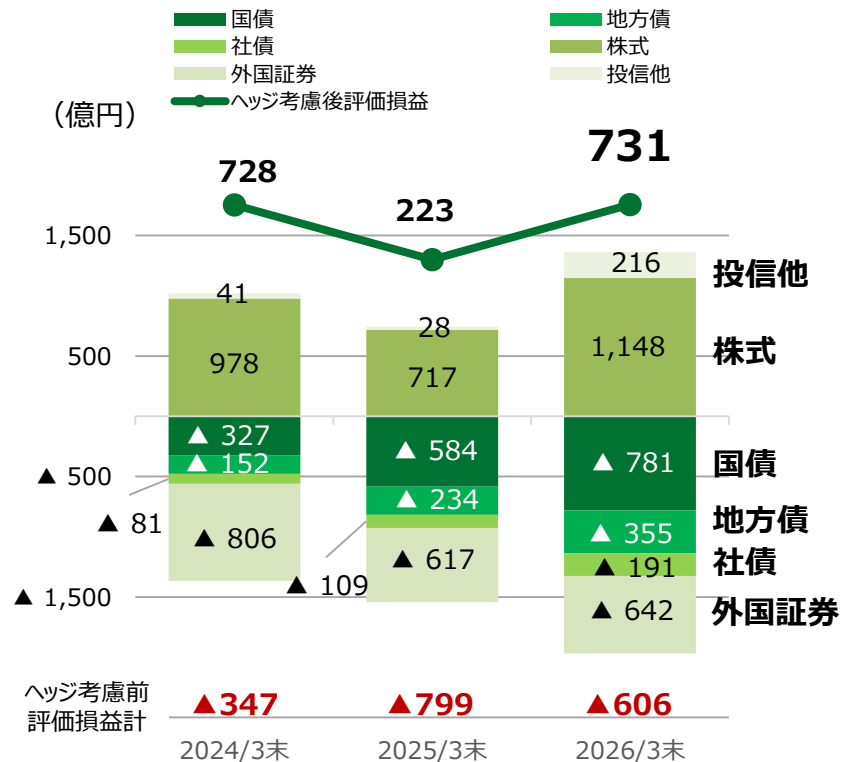


## 有価証券残高は増加するも、ヘッジ考慮後評価は含み益を確保

有価証券残高の推移（2行合算）

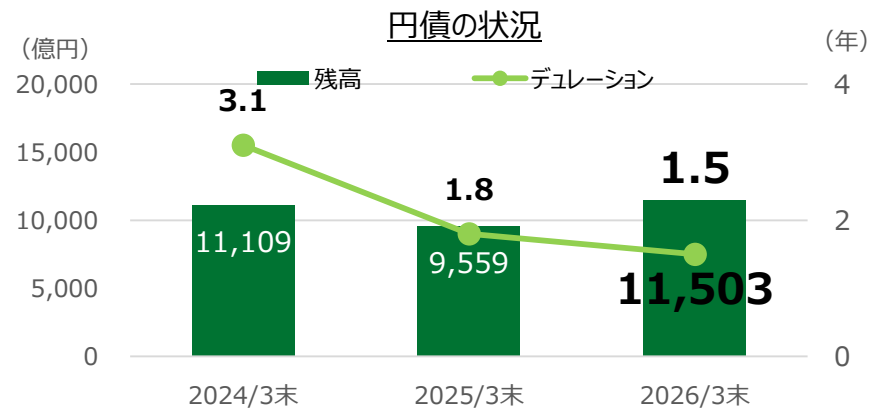


有価証券評価損益の推移（2行合算）



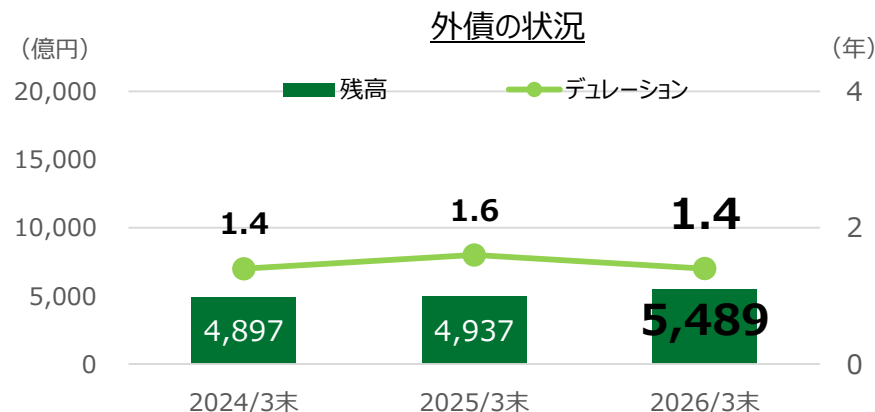
# 7. 円債・外債の状況

## 円債・外債ともに入れ替えを進め、デュレーション・金利リスクをコントロール



ヘッジ考慮後  
評価損益 ▲316億円 ▲528億円 ▲697億円

※ 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く



ヘッジ考慮後  
評価損益 ▲62億円 ▲13億円 ▲125億円

※ 外国籍投信、ユーロ円債、サムライ債を含む

### <金利上昇時の影響 (有価証券評価損益への影響額)>

平行に  
10bps上昇  
した場合の  
試算値

円債	▲12.6億円
外債	▲5.6億円

※ 1 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く  
※ 2 金利スワップ・債券ヘッジ型ファンドを含む

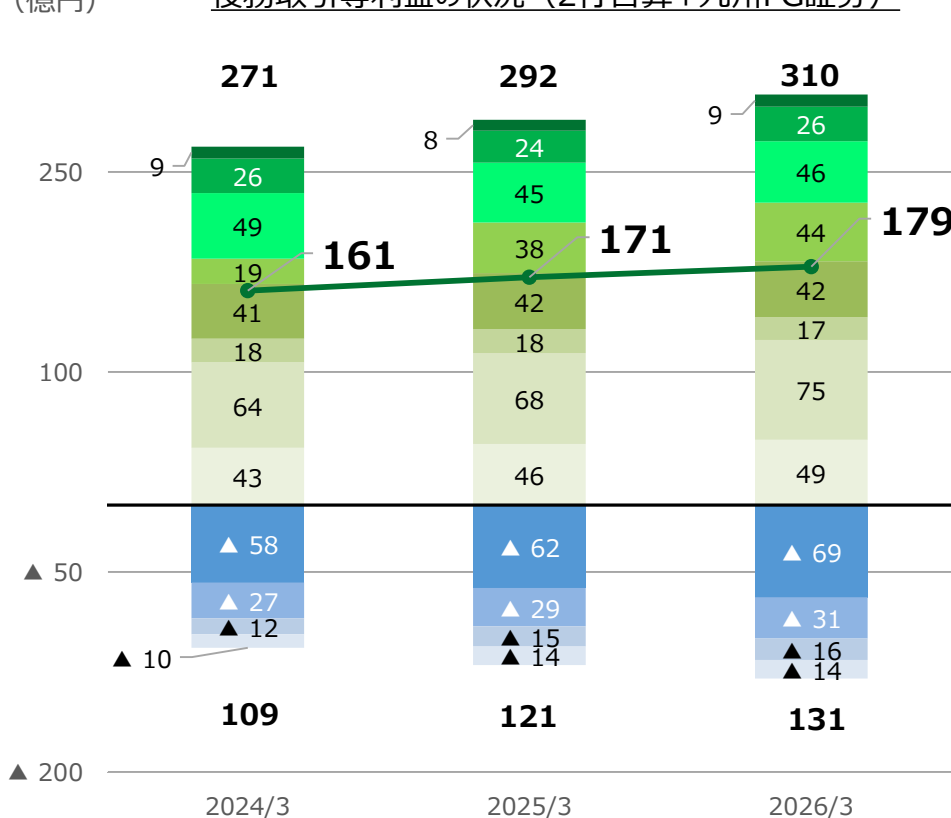
### <金利期間別影響額> (億円)

	1年未満	1~3年	3~5年	5~7年	7~10年	10年超
円債	▲0.7	▲4.9	2.6	▲1.0	1.6	▲10.0
外債	▲0.4	▲1.2	▲0.5	▲0.9	▲0.0	▲2.6

# 8. 役務取引等利益

## 役務取引等利益は、受入為替手数料およびローン取扱手数料の増加が牽引し前年比で増益

(億円) 役務取引等利益の状況 (2行合算+九州FG証券)



**収益**

- F B 関連
- 法人ソリューション手数料
- 預り資産・信託関係
- ローン取扱手数料等
- 事務受託・口振手数料
- A T M 関連
- 受入為替手数料
- その他

**費用**

- その他
- 支払為替手数料
- 支払保証料
- 団信保険料

● 役務取引等利益

収益の主な増加要因

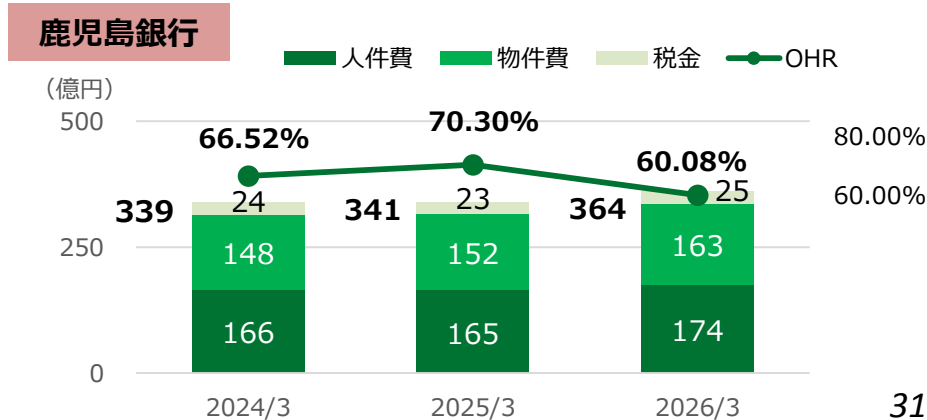
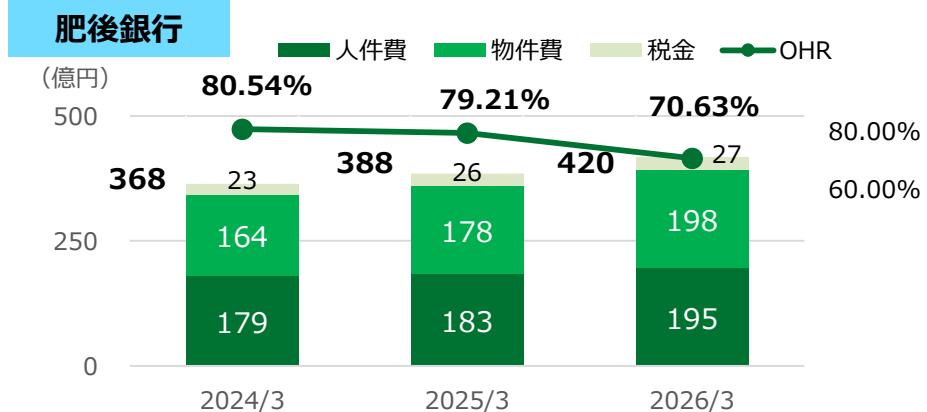
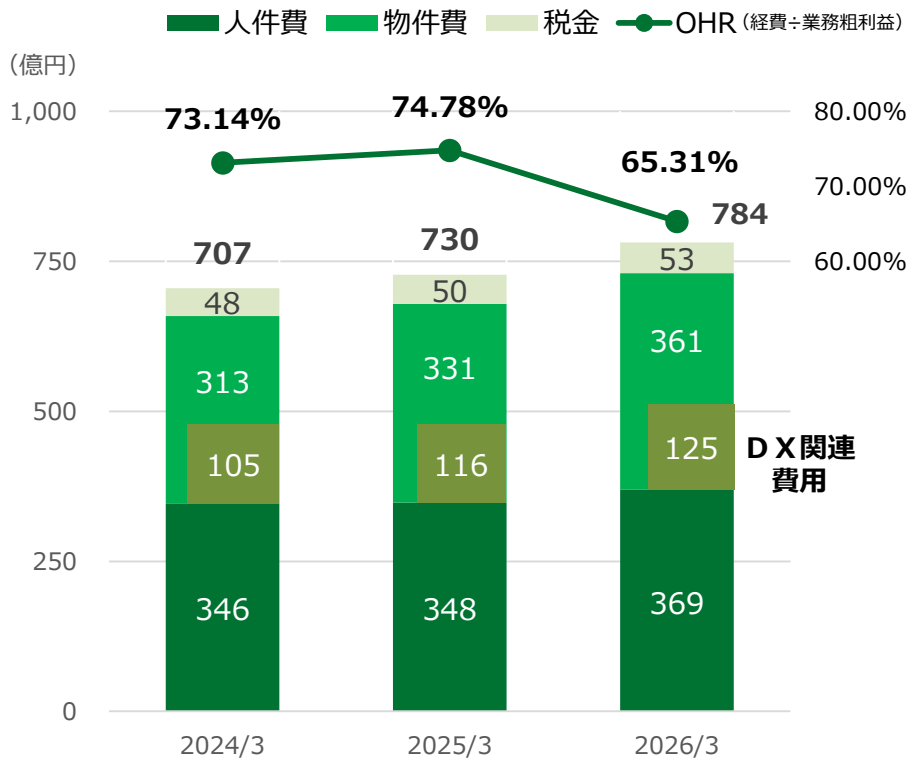
- 役務取引等収益
- ・ 受入為替手数料 +7億円
- ・ ローン取扱手数料等 +5億円

費用の主な増加要因

- 役務取引等費用
- ・ 団信保険料 (▲) +7億円
- ・ 支払為替手数料 (▲) +1億円
- ・ 支払保証料 (▲) +1億円

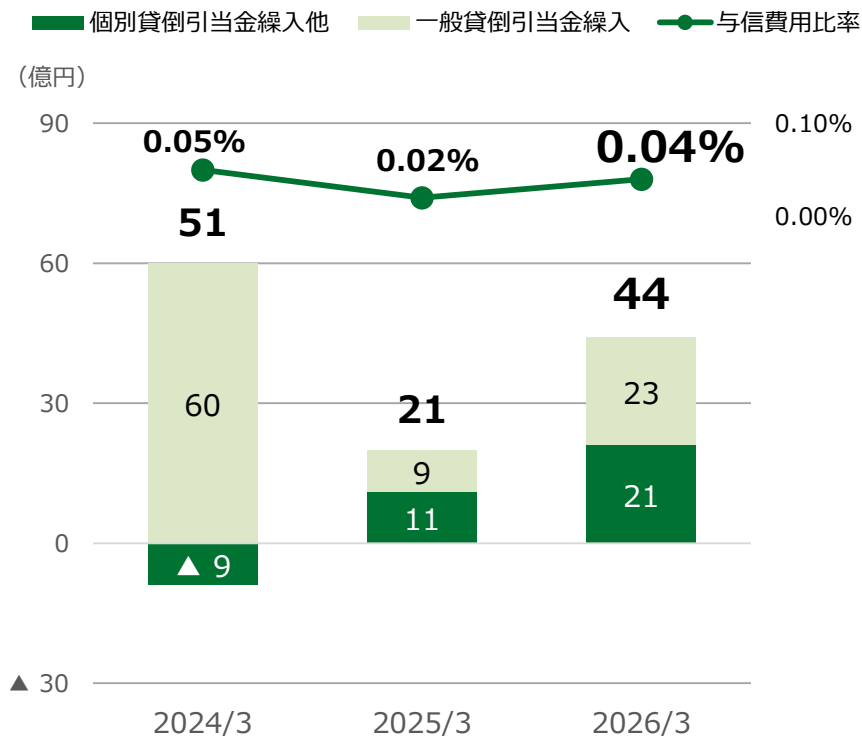
## 経費は、物件費・人件費の増加により前年比で上昇するも、OHRは改善

経費の推移（2行合算）

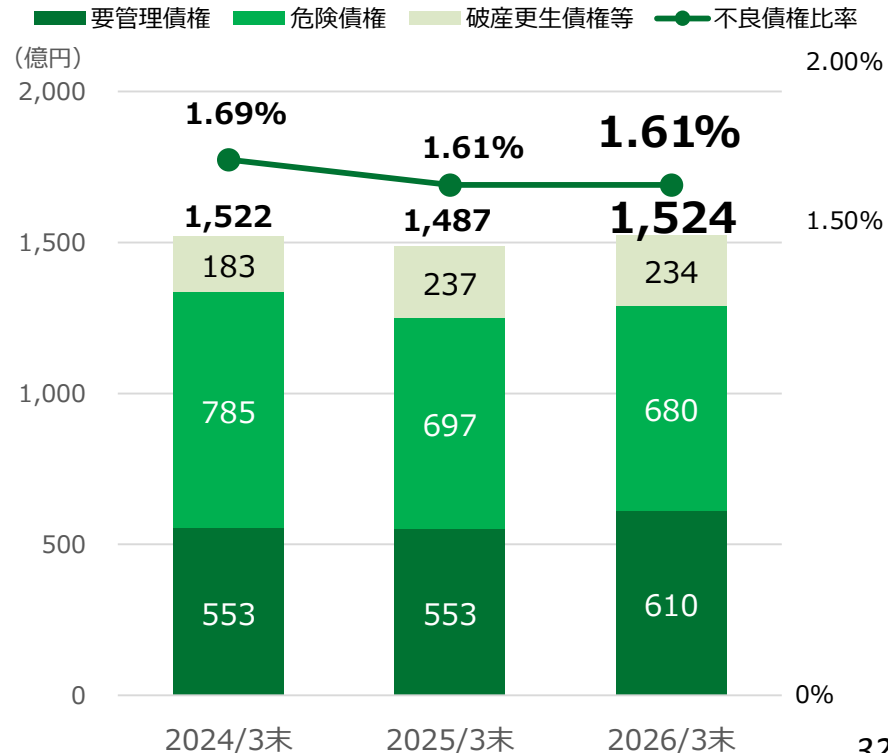


## 与信先の格付変動等の影響はあるも、与信費用は巡行ベースでコントロール

与信費用の推移（2行合算）



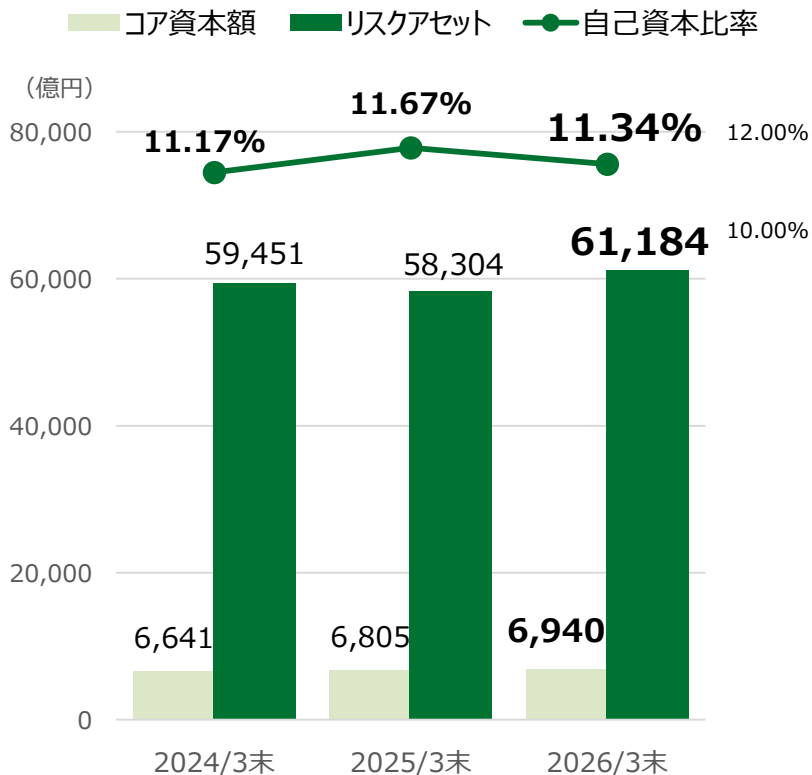
金融再生法開示債権の推移（2行合算）



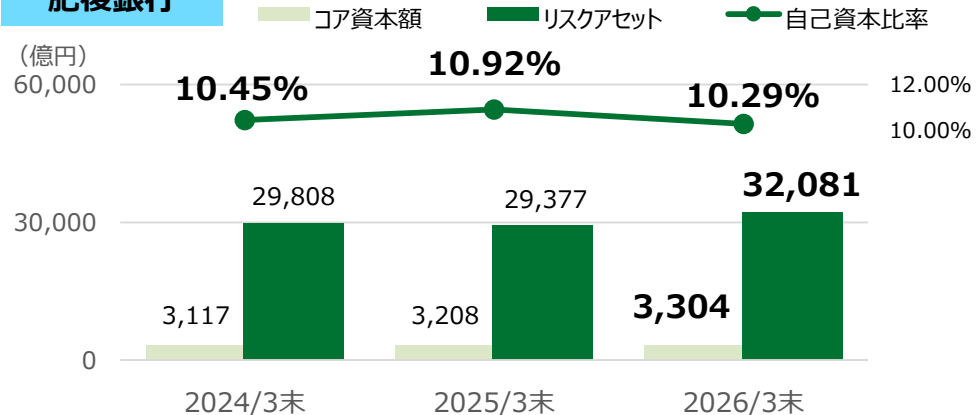
# 11. 自己資本比率

自己資本比率は、法人・個人貸出の積上げによるリスクアセット増加で前年度末比0.33%低下

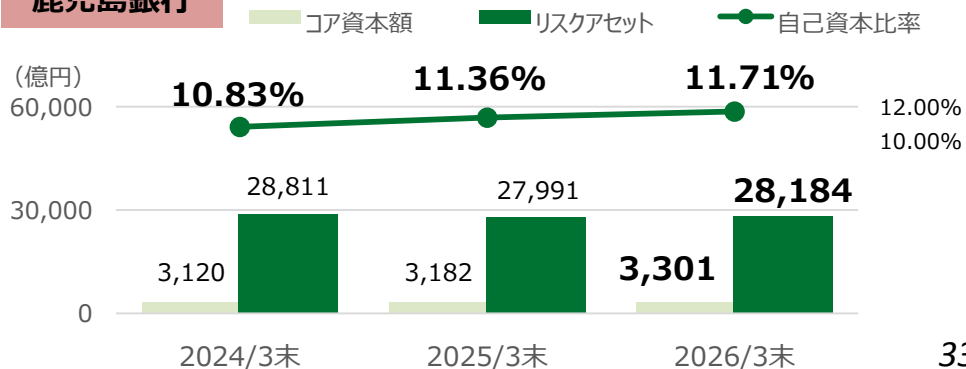
自己資本比率の推移 (KFG連結)



肥後銀行



鹿児島銀行



## 2026年度の連結当期純利益は、450億円と実質過去最高益を見込む

### 2026年度業績予想（KFG連結）

(億円)

KFG連結	2025年度 (実績)	2026年度 (業績予想)	増減
経常利益	537	<b>650</b>	113
当期純利益	376	<b>450</b>	74

※金利シナリオ：政策金利 年度末1.25%（年度半ば1回、年度末1回 各+0.25%利上げ）

### 2026年度業績予想（2行合算）

(億円)

2行合算	2025年度 (実績)	2026年度（業績予想）			増減
		2行合算	肥後	鹿児島	
経常利益	531	<b>645</b>	315	330	114
当期純利益	373	<b>445</b>	220	225	72
与信費用	44	<b>50</b>	20	30	6



Kyushu FG

# 第4次グループ中期経営計画「躍進」 (APPENDIX)

株式会社九州フィナンシャルグループ  
Kyushu Financial Group, Inc.



## 第4次グループ中期経営計画「躍進」(2024年4月～2027年3月)

### 基本方針

### 地域価値共創グループ実現へ向けての躍進

#### 基本戦略

#### 1. 未来を創る地域価値提供の取り組み加速

##### 戦略の柱

- ① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充
- ② 地域・お客さま起点のソリューション提供

#### 2. 地域経済の成長に向けたコア事業の強化

##### 戦略の柱

- ① 地域産業の成長支援強化
- ② ライフプランコンサルティングの深化

#### 3. 持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

##### 戦略の柱

- ① 人的資本経営の実践による社員価値向上
- ② GX・DXにかかる先進的な取り組み
- ③ KFGビジネスモデルの変革

## 2. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化①

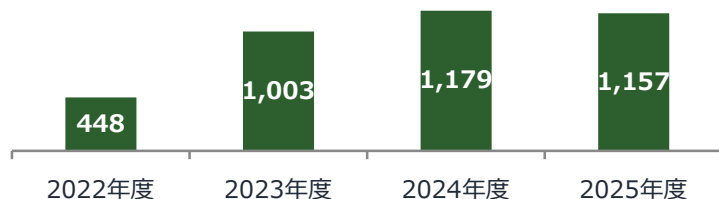
### 戦略の柱①

### 地域産業の成長支援強化

#### 半導体産業への取り組み

#### 電子デバイス関連産業向け貸出金

貸出金実行額 **累計3,788億円** (億円)  
(2022年4月～2026年3月)



#### TSMCサプライチェーン参入支援社数

支援実績 (2026.3末時点) (件)

累計実績 **29件**



#### 海外からの進出企業の状況

進出企業数および肥後銀行の口座開設数 (2026.3時点)

#### 熊本へ進出企業

**115社** (※)

(※) 肥後銀行調べ

#### 口座開設数

**67社**

#### 電子デバイス関連産業支援に向けた連携状況

- **北洋銀行との連携・協力** **2025.9発表**  
北洋銀行（本店：北海道札幌市）と半導体サプライチェーン構築に係る連携・協力に関する覚書を締結
- **Rapidus(株)への出資** **2026.2発表**  
熊本と北海道の両地域を結ぶ新たな半導体産業ネットワークの構築を目的とし、次世代半導体の設計・製造を目指すRapidus株式会社に対し出資
- **Q-BASS（九州・沖縄地銀連携協定）の取り組み** **2025.9発表**  
経済産業省の「令和7年度中小企業に対する支援機関等のGX支援体制強化事業」に採択



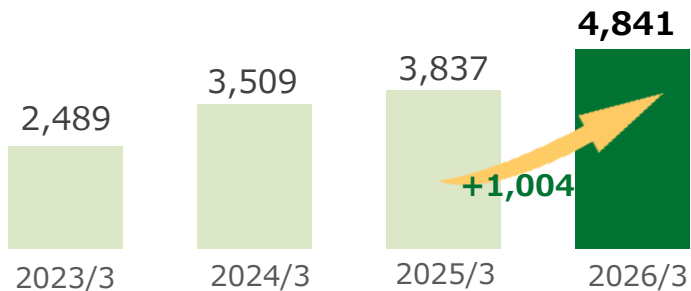
### 3. 【基本戦略1】地域経済の成長に向けたコア事業の強化②

#### 戦略の柱②

#### ライフプランコンサルティングの深化

#### 預り資産残高推移（九州FG証券）

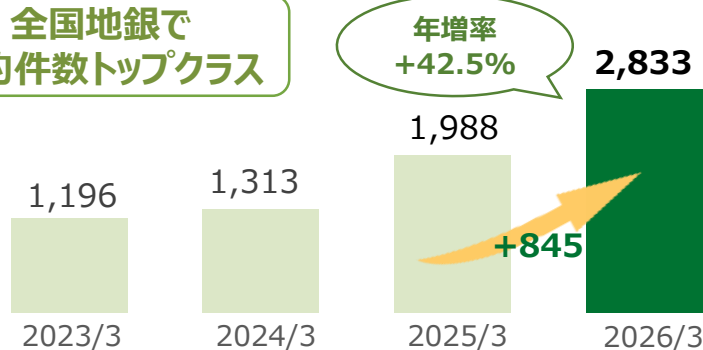
(億円)



#### 信託業務契約推移

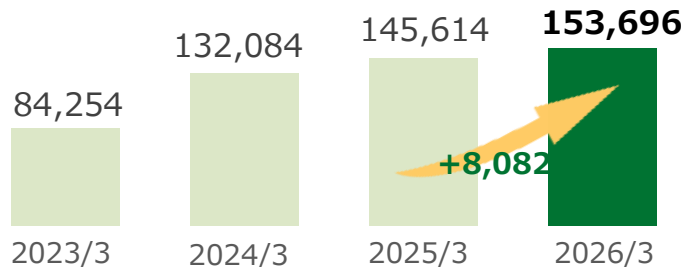
(件)

全国地銀で  
契約件数トップクラス



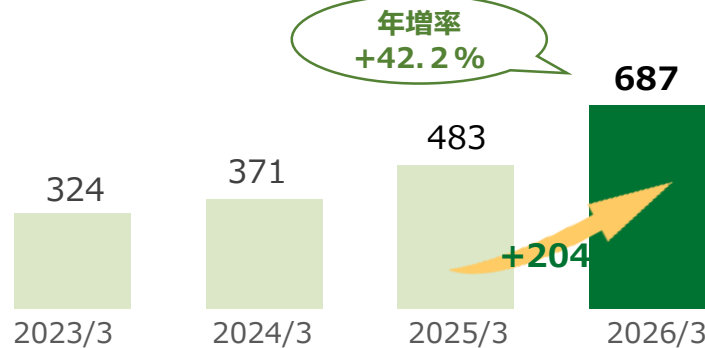
#### NISA口座数推移

(口座)



#### 信託役務収益推移

(百万円)

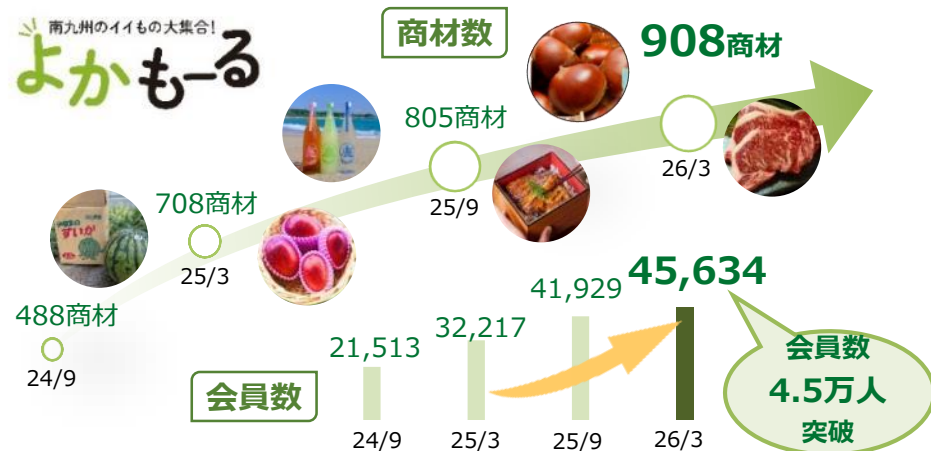


# 4. 【基本戦略2】未来を創る地域価値提供の取り組み加速

## 戦略の柱① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充

### 地域商社「九州みらいCreation」の取り組み

#### ECモール「よかもーる」



#### ふるさと納税サイト「ふるさと一番」

ふるさと納税ポータルサイト  
「ふるさと一番」の本格的な運営開始



## 戦略の柱② 地域・お客さま起点のソリューション提供

### 地域デジタル化への取り組み

鹿児島銀行

2026.1完了

### デジタル関連事業会社「パステムソリューションズ」の子会社化

- 地域、お客様に対するデジタル化支援の体制強化の取り組み
- 従来の金融の枠を超えたデジタルソリューション分野の事業拡大を図る

### 地域価値向上への取り組み

肥後銀行

2026.2発表

### KSエナジーによる脱炭素社会の構築に向けた取り組み

- 日立製作所と特別高圧系統用蓄電所の共同開発・運用の検討を開始
- 再生可能エネルギー、地域のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

### デジタル分野連携と海外進出支援

KFG

2026.3締結

### ベトナムIT企業「FPTジャパンホールディングス」と基本合意

- 当グループのソフトウェア開発力の強化・IT人材交流
- 取引先企業のベトナム進出や販路拡大支援

# 5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立①

## 戦略の柱①

## 人的資本経営の実践による社員価値向上

### 賃上げ・初任給改定

4年連続で定期昇給およびベースアップによる5%以上の賃上げ方針（2026年度）を決定。初任給についても、2027年4月引上げ予定

(単位：円)	2026年度 賃上げ率	2022年 4月	2023年 4月	2024年 4月	2025年 4月	2026年 4月	2027年 4月
<b>K F G</b>	約5.0%	250,500	270,000	280,000	300,000	310,000	325,000
<b>肥後銀行</b>	約6.0%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000	285,000
<b>鹿児島銀行</b>	約5.5%	205,000	220,000	240,000	260,000	270,000	285,000

※初任給：大卒・エリアフリーの場合

### 多様性の尊重

#### 女性管理職比率

※2026年3月末

**肥後銀行**

**18.6%**

**鹿児島銀行**

**13.2%**

#### 正規雇用男女間賃金差異

※正規雇用男性従業員の平均賃金に対する  
正規雇用女性従業員の平均賃金の割合

**肥後銀行**

**64.4%**

**鹿児島銀行**

**60.5%**

#### <女性活躍推進に向けた対応策>

- ・管理職登用の早期化のための育成施策の強化
- ・管理職ポストへのキャリア採用
- ・法人営業や本部企画セクションへの積極配置
- ・役席時のジョブローテーション等、女性管理職モデルの多様化 等

### 社内公募制度「キャリアチャレンジ」

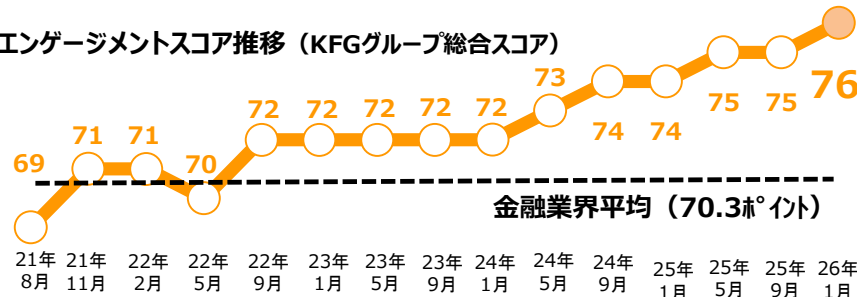
キャリア形成に関し、自ら手を挙げチャレンジできる機会として、銀行内・グループ内部署に加え、グループ外への研修出向について公募する制度  
→ 2025年度は28名が希望するポストに合格

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
募集ポスト	26件	41件	48件	73件
応募者数	72名	83名	76名	64名

### 業界平均を上回るエンゲージメント

従業員のエンゲージメント調査スコアは、グループ全体で76ポイント  
→ 金融業界平均70.3ポイントを上回り良好

#### エンゲージメントスコア推移（KFGグループ総合スコア）



※エンゲージメントサーベイ「Wevox」利用 業界平均は、アトラエ社調べ

# 6. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立②

## 戦略の柱②

## GX・DXにかかる先進的な取り組み

### 地域・お客様の脱炭素化に向けた取り組み

肥後銀行

鹿児島銀行

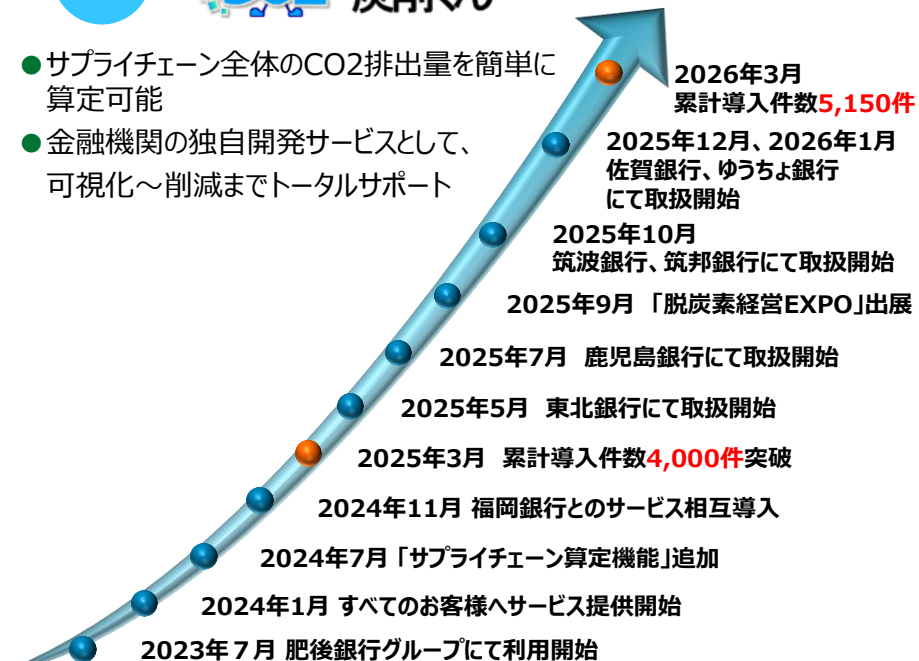
### 「Zero-Carbon-System（炭削くん）」による脱炭素経営促進

#### 特徴



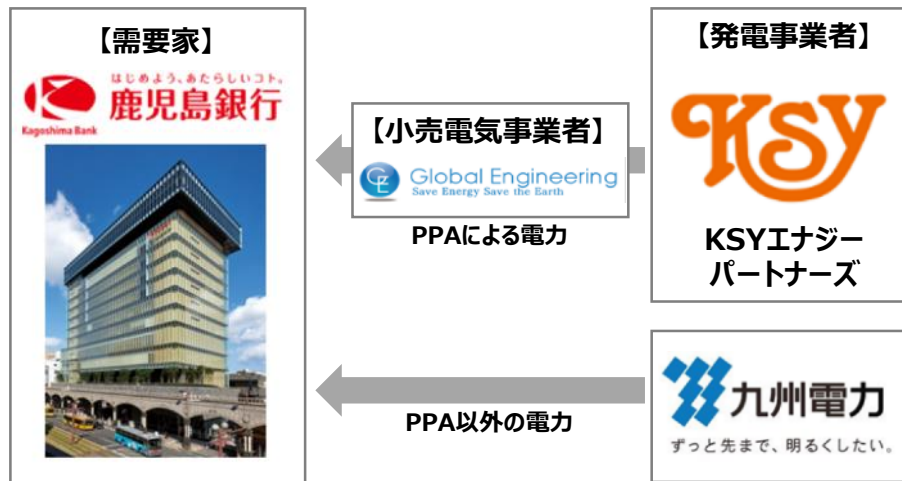
- サプライチェーン全体のCO2排出量を簡単に算定可能
- 金融機関の独自開発サービスとして、可視化～削減までトータルサポート

#### 「炭削くん」の歩み



### 本店ビルにおけるオフサイトコーポレートPPAの導入

- カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、鹿児島銀行の本店ビルにおけるオフサイトコーポレートPPA契約を締結
- 株式会社KSY エナジーパートナーズが鹿児島県鹿屋市で発電する再生可能エネルギー（太陽光）由来の電力を、株式会社グローバルエンジニアリングを小売電気事業者として、鹿児島銀行が全量買い取り
- 鹿児島銀行の脱炭素化とエネルギーの地産地消に資する取り組み





Kyushu FG

# 計数資料 (APPENDIX)

株式会社九州フィナンシャルグループ  
Kyushu Financial Group, Inc.



# 1. 決算概況

## 【肥後銀行】

- ・ 業務粗利益は、その他業務利益の改善等により、前年比+104億円の595億円となった。
- ・ 経常利益は、業務粗利益の増加等により、前年比+45億円の267億円となった。
- ・ 当期純利益は、前年比+30億円の188億円となった。

## 肥後銀行 損益状況

(億円)

損益状況	肥後銀行		
	2025年度	前年比	2024年度
経常収益	1,215	30	1,184
業務粗利益	595	104	491
資金利益	587	30	557
役務取引等利益	74	2	71
その他業務利益	▲ 66	72	▲ 138
(うち国債等債券損益)	▲ 31	49	▲ 80
経費 (▲)	420	31	388
コア業務純益	206	23	182
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	▲ 0	▲ 0	-
業務純益	175	73	102
臨時損益	92	▲ 27	119
不良債権処理額 (▲)	18	16	1
貸倒引当金戻入益	-	▲ 6	6
株式等関係損益	87	▲ 19	106
経常利益	267	45	221
特別損益	▲ 0	0	▲ 0
税引前当期純利益	267	45	221
当期純利益	188	30	158
(与信費用)	17	23	▲ 5

## 【鹿児島銀行】

- ・ 業務粗利益は、資金利益の増加等により、前年比+119億円の605億円となった。
- ・ 経常利益は、業務粗利益の増加等により、前年比+69億円の264億円となった。
- ・ 当期純利益は、前年比+45億円の185億円となった。

## 鹿児島銀行 損益状況

(億円)

損益状況	鹿児島銀行		
	2025年度	前年比	2024年度
経常収益	965	69	895
業務粗利益	605	119	485
資金利益	560	73	486
役務取引等利益	79	3	76
その他業務利益	▲ 33	42	▲ 76
(うち国債等債券損益)	▲ 12	38	▲ 51
経費 (▲)	364	22	341
コア業務純益	254	58	195
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	23	13	9
業務純益	218	83	134
臨時損益	45	▲ 14	60
不良債権処理額 (▲)	3	▲ 13	16
貸倒引当金戻入益	-	-	-
株式等関係損益	41	▲ 26	67
経常利益	264	69	194
特別損益	▲ 0	0	▲ 1
税引前当期純利益	263	70	193
当期純利益	185	45	140
(与信費用)	26	0	26

## 2. 資金利益

【肥後銀行】 587億円（前年比+30億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息の増加等により、前年比+30億円となった。

【鹿児島銀行】 560億円（前年比+73億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息の増加等により、前年比+73億円となった。

### 肥後銀行 資金利益の状況

(億円)

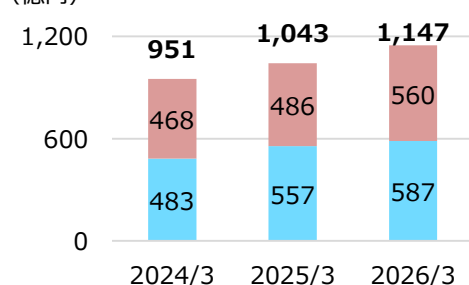
	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
資金利益	483	557	587	30
国内部門	437	501	526	25
うち貸出金利息	358	403	523	120
うち有価証券利息	77	119	80	▲ 39
うち資金調達コスト (▲)	18	46	124	78
国際部門	46	55	60	4
うち貸出金利息	46	41	30	▲ 10
うち有価証券利息	100	126	152	25
うち資金調達コスト等 (▲)	101	112	122	10

### 鹿児島銀行 資金利益の状況

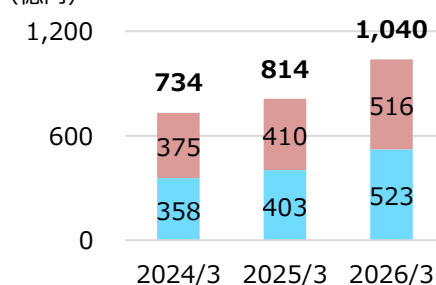
(億円)

	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
資金利益	468	486	560	73
国内部門	447	465	533	68
うち貸出金利息	375	410	516	105
うち有価証券利息	66	67	94	27
うち資金調達コスト (▲)	4	41	130	88
国際部門	20	21	26	5
うち貸出金利息	11	4	0	▲ 3
うち有価証券利息	51	54	48	▲ 5
うち資金調達コスト (▲)	42	37	22	▲ 14

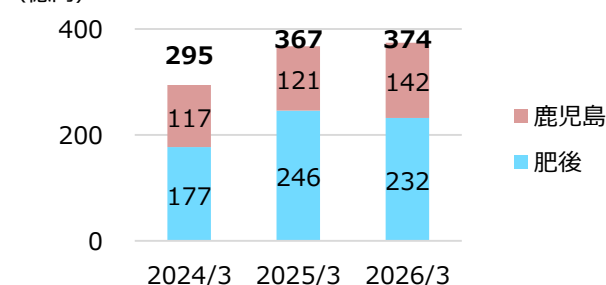
#### 資金利益の推移



#### 国内貸出金利息の推移



#### 有価証券利息の推移



# 3. 役務取引等利益

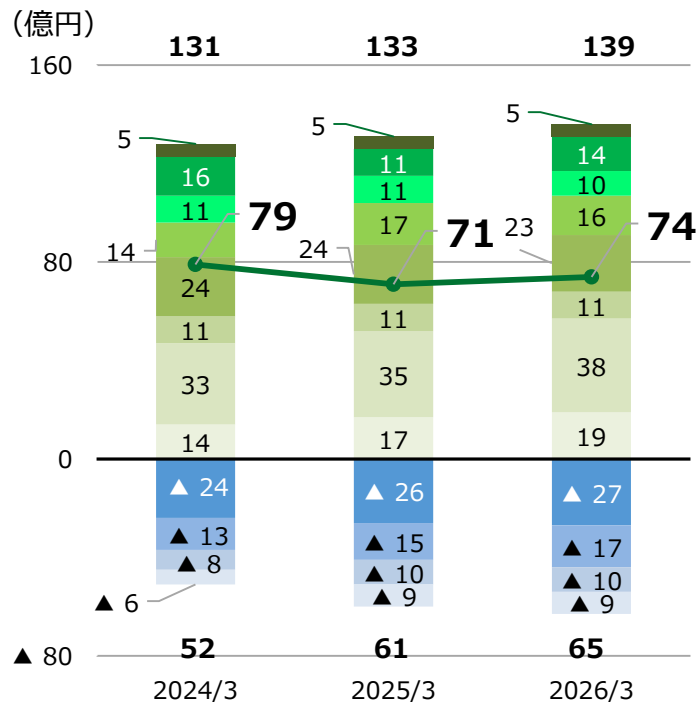
## 【肥後銀行】

- 役務取引等利益は、受入為替手数料や法人ソリューション手数料の増加等により、前年比+2億円の74億円となった。

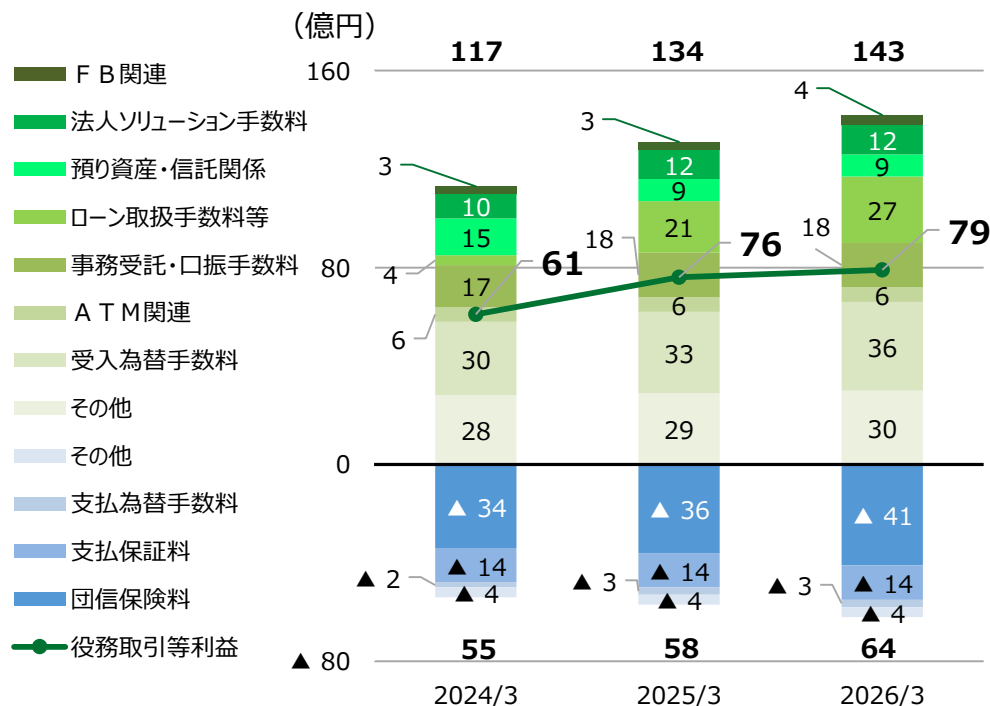
## 【鹿児島銀行】

- 役務取引等利益は、受入為替手数料やローン取扱手数料の増加等により、前年比+3億円の79億円となった。

### 肥後銀行 役務取引等利益の状況



### 鹿児島銀行 役務取引等利益の状況

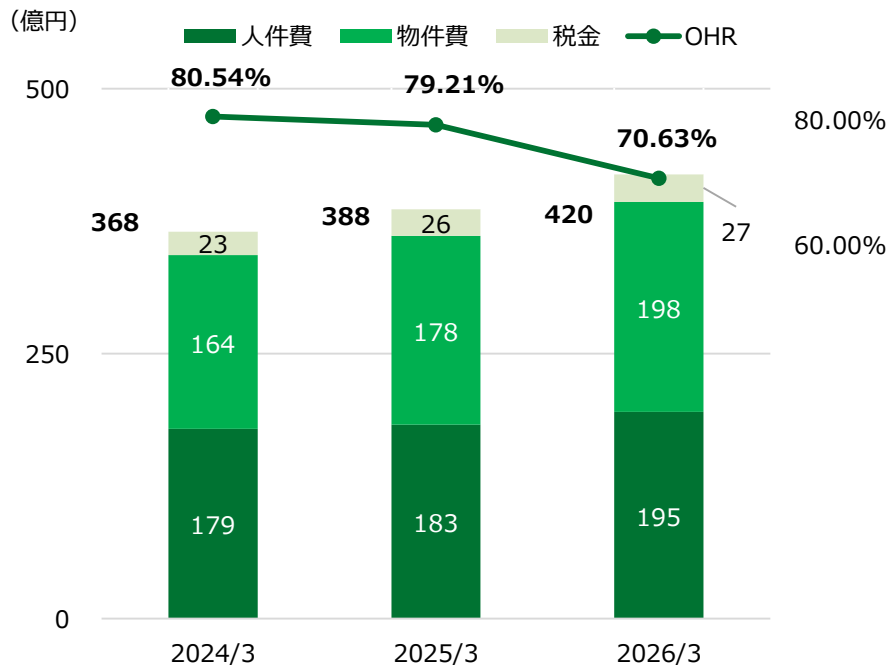


# 4. 経費

## 【肥後銀行】

- ・ 経費は、物件費、人件費の増加等により前年比+31億円の420億円となった。
- ・ OHRは、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により、前年比▲8.58%の70.63%となった。

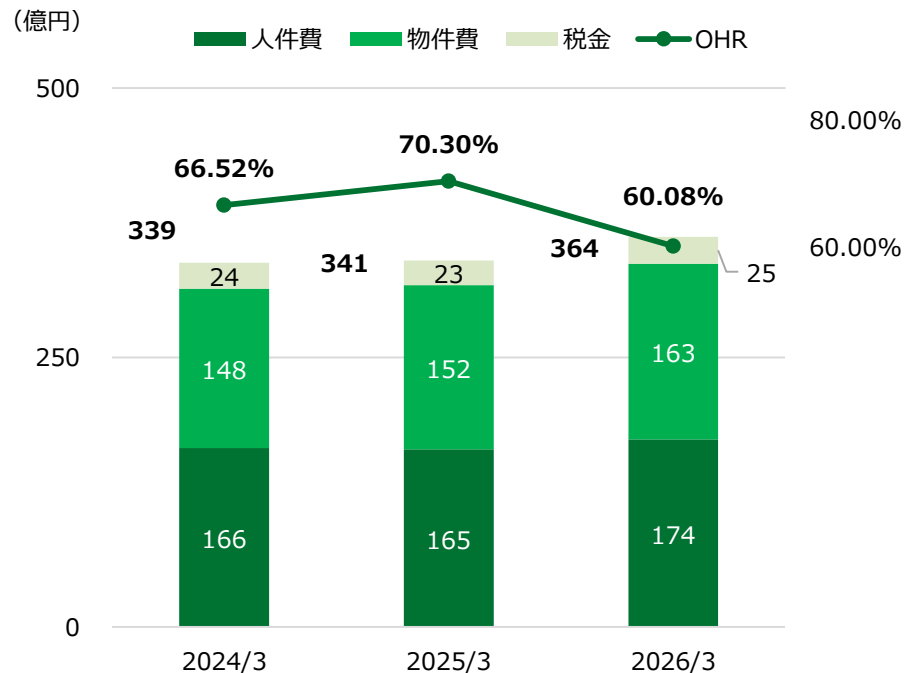
### 肥後銀行 経費の状況



## 【鹿児島銀行】

- ・ 経費は、物件費、人件費の増加等により前年比+22億円の364億円となった。
- ・ OHRは、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により、前年比▲10.22%の60.08%となった。

### 鹿児島銀行 経費の状況



# 5. 貸出金（平残）

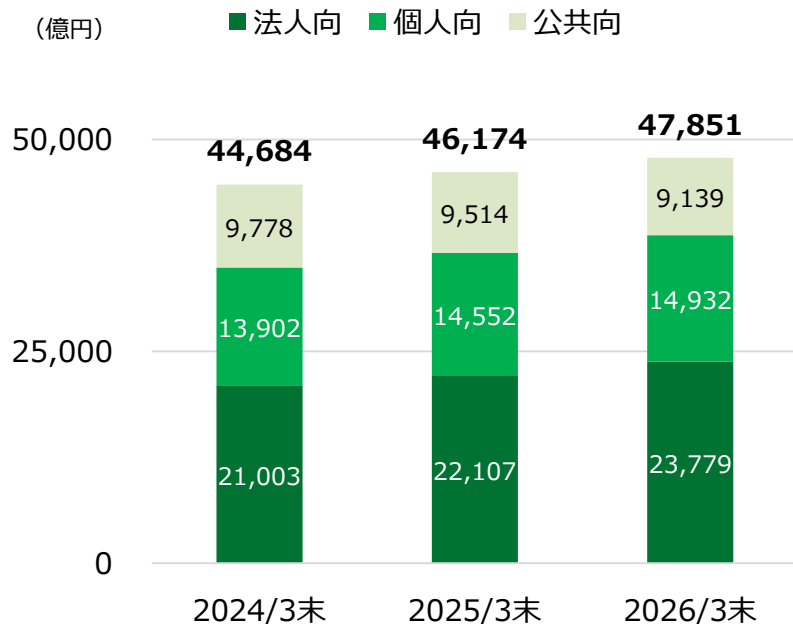
## 【肥後銀行】（平残）

- 法人向、個人向の貸出金が増加したことから、前年度末比+1,676億円の4兆7,851億円となった。

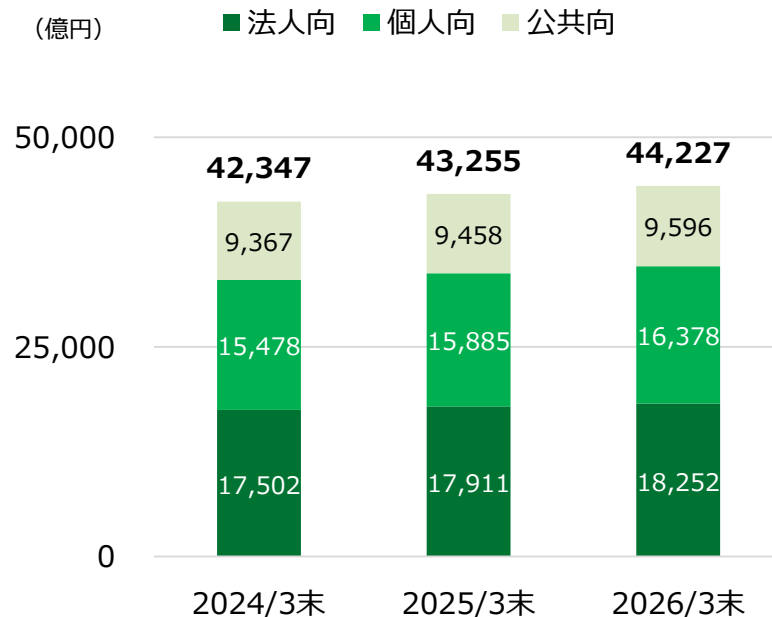
## 【鹿児島銀行】（平残）

- 法人向、個人向の貸出金が増加したことから、前年度末比+972億円の4兆4,227億円となった。

### 肥後銀行 平残



### 鹿児島銀行 平残

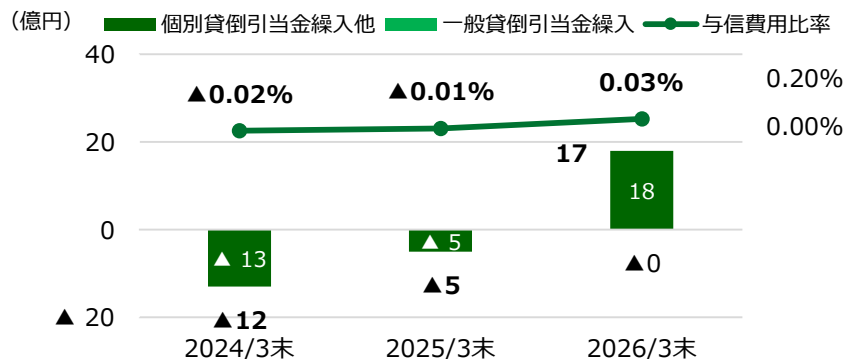


# 6. 与信費用と金融再生法開示債権

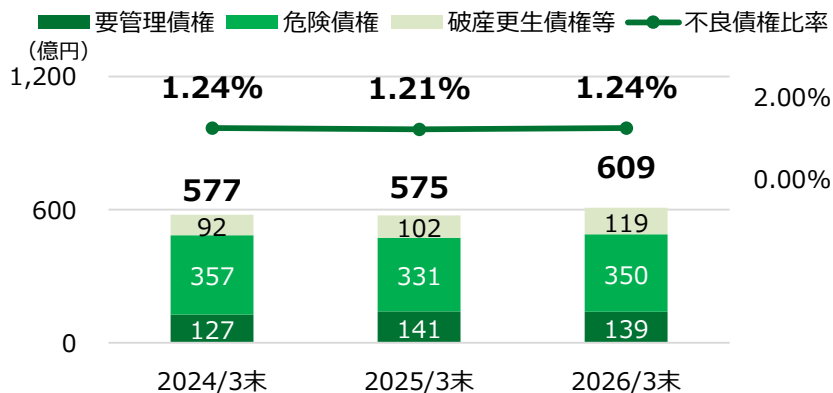
## 【肥後銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年度末比+0.04%の0.03%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比+0.03%の1.24%となった。

### 肥後銀行 与信費用の状況



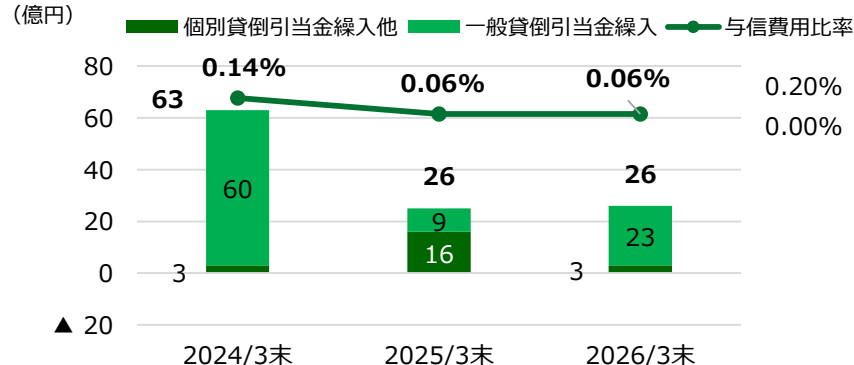
### 肥後銀行 金融再生法開示債権の状況



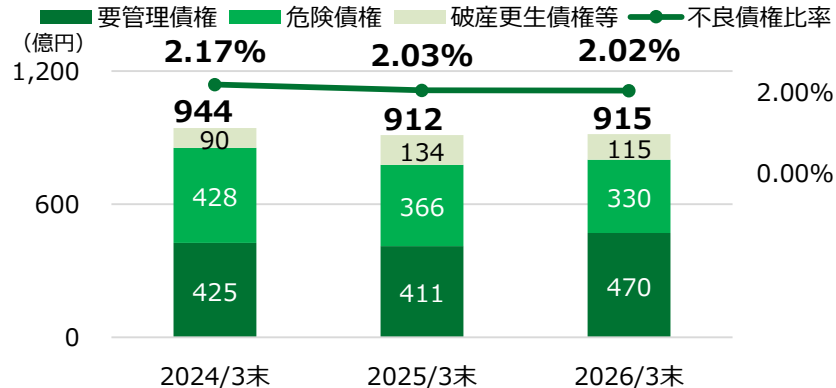
## 【鹿児島銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年度末比横ばいの0.06%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.01%の2.02%となった。

### 鹿児島銀行 与信費用の状況



### 鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況



# 7. 有価証券（残高）

## 【肥後銀行】

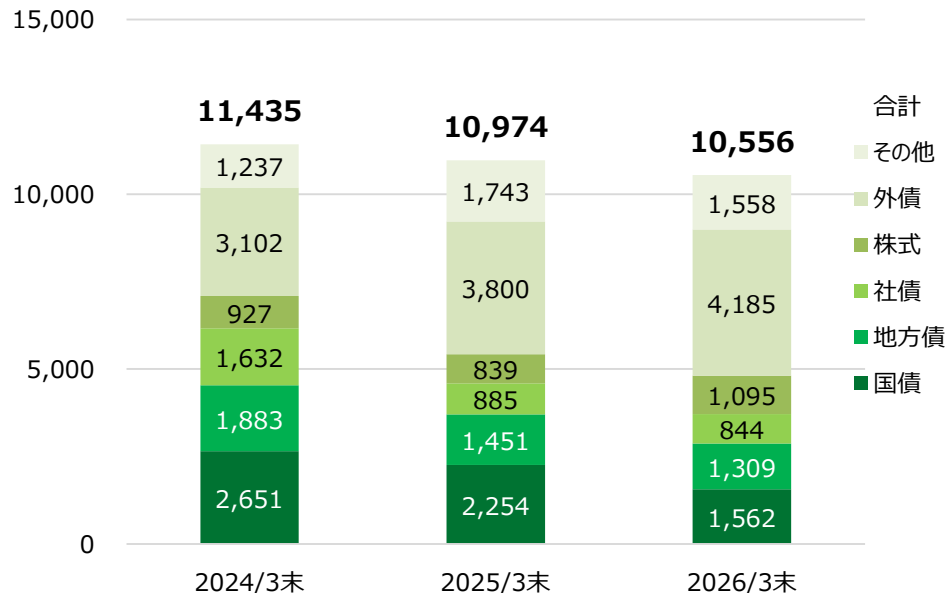
- 有価証券残高は、国債及びその他の証券の減少を主因として、前年度末比▲417億円の1兆556億円となった。

## 【鹿児島銀行】

- 有価証券残高は、国債及び社債の増加を主因として、前年度末比+3,200億円の1兆888億円となった。

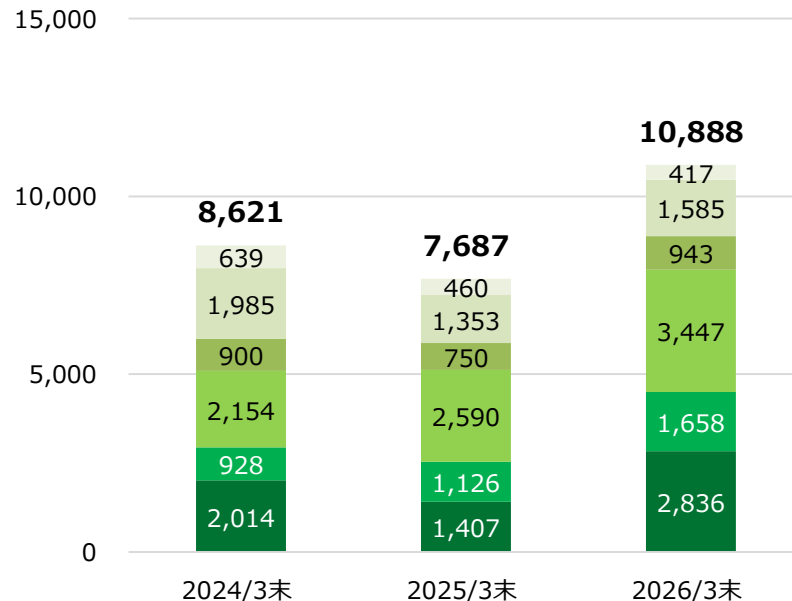
### 肥後銀行 有価証券残高の状況

(億円)



### 鹿児島銀行 有価証券残高の状況

(億円)



# 7. 有価証券（評価損益）

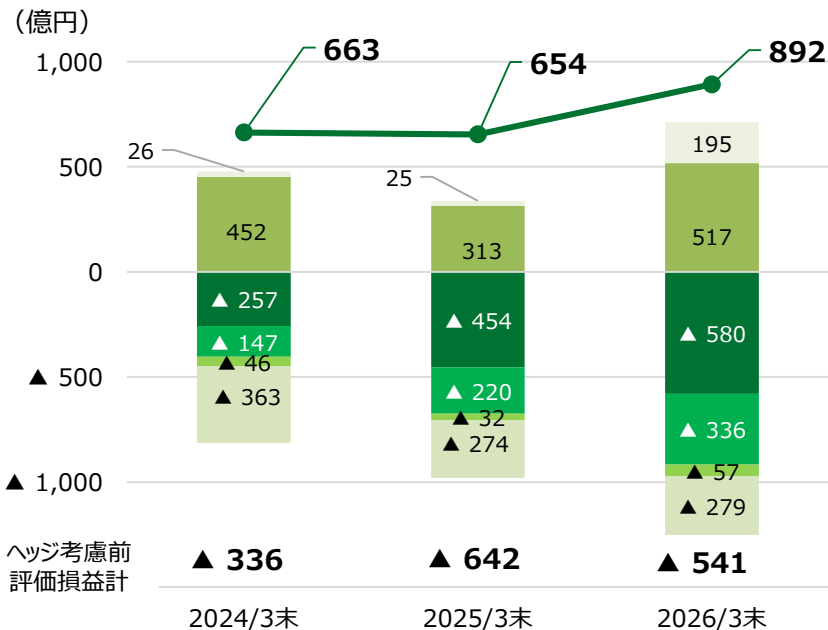
## 【肥後銀行】

・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、351億円となった。

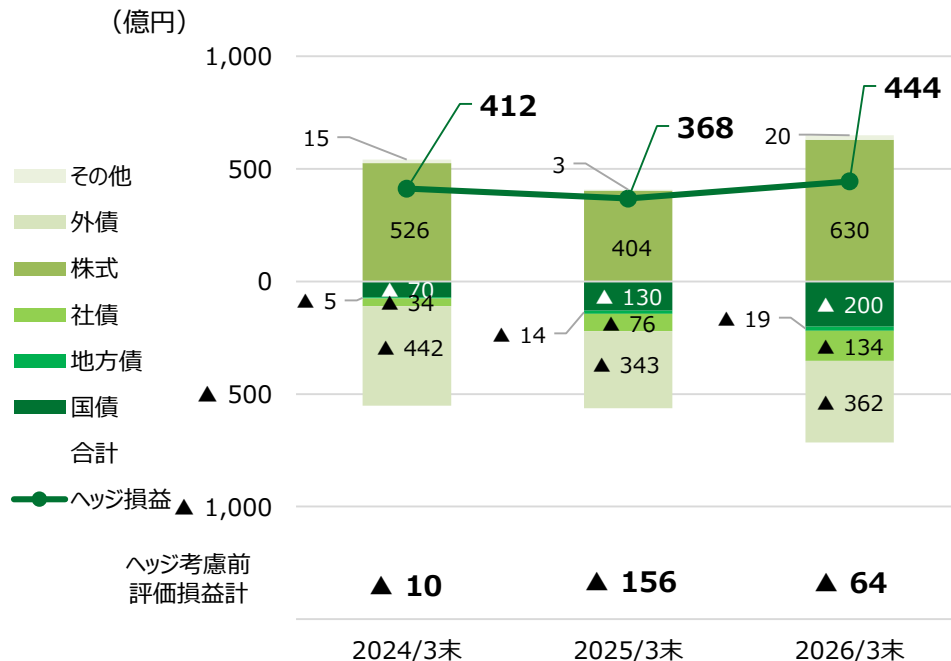
## 【鹿児島銀行】

・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、379億円となった。

### 肥後銀行 有価証券評価損益の状況



### 鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況



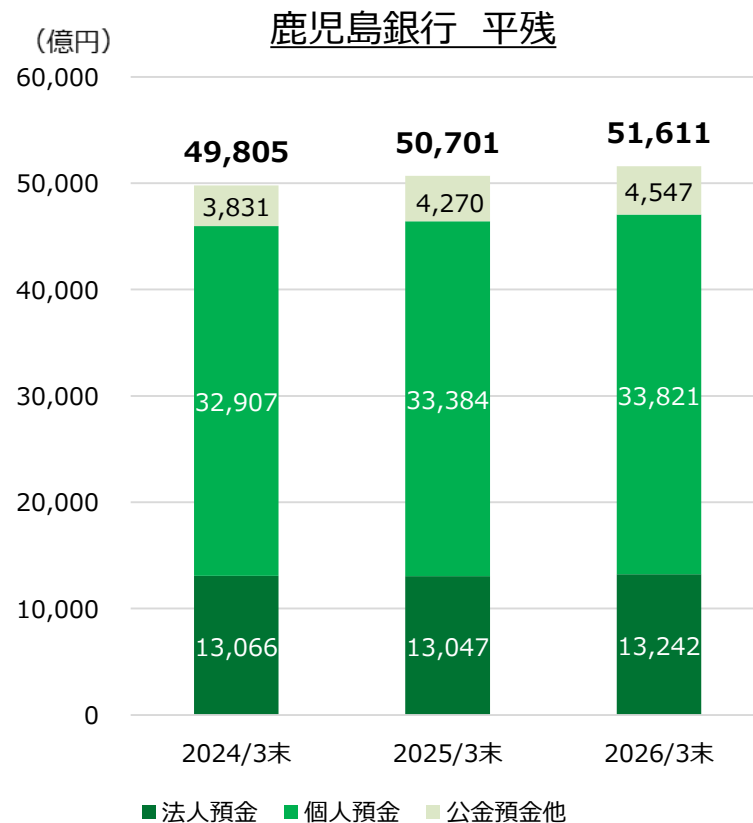
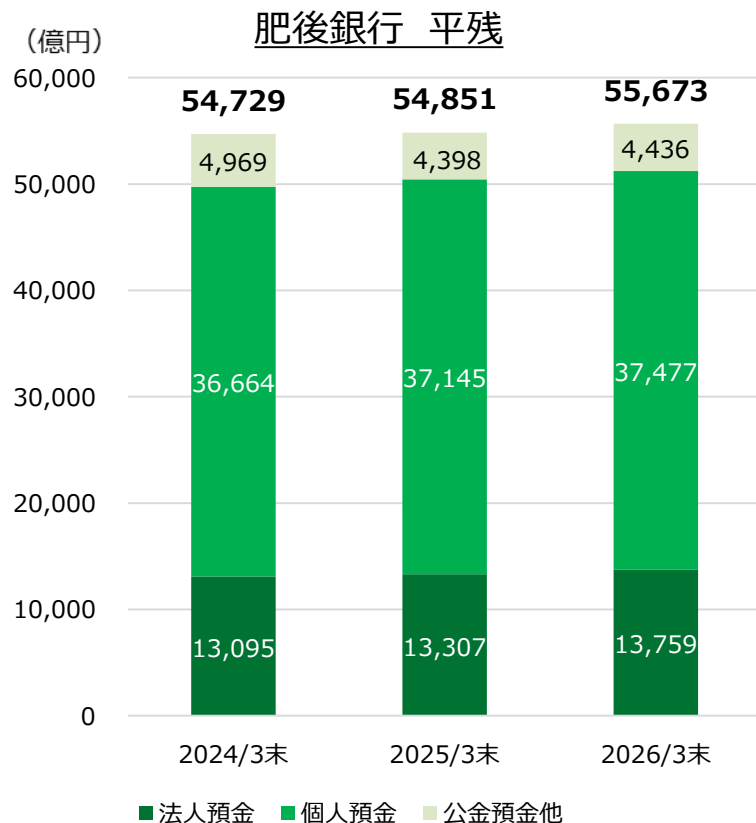
## 8. 総預金（含むNCD）（平残）

### 【肥後銀行】

- 種別ごとの預金がすべて増加したことから、前年度末比+822億円の5兆5,673億円となった。

### 【鹿児島銀行】

- 種別ごとの預金がすべて増加したことから、前年度末比+910億円の5兆1,611億円となった。

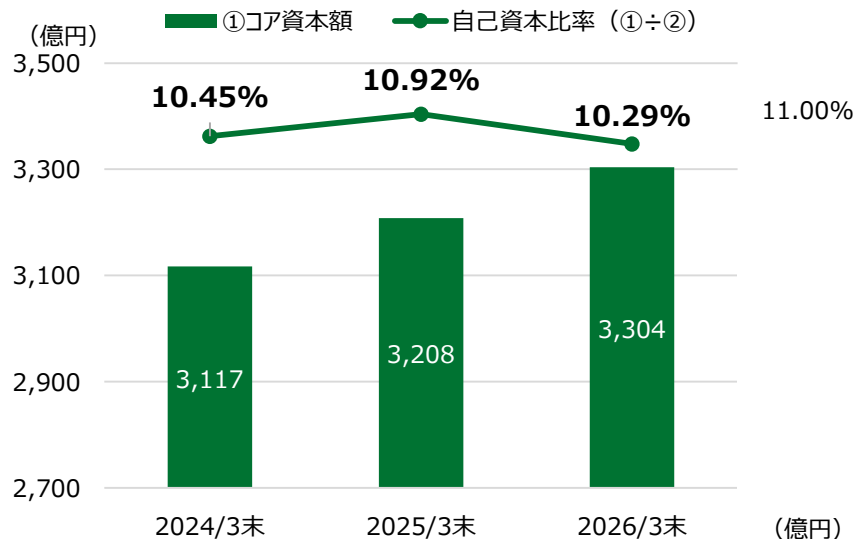


# 9. 自己資本比率

## 【肥後銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比▲0.63%の10.29%となった。

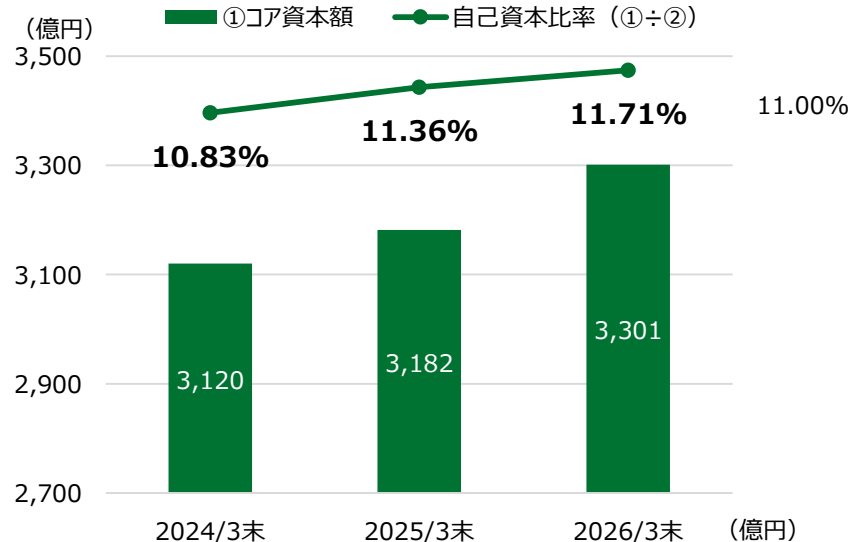
### 肥後銀行 自己資本比率の状況



## 【鹿児島銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比+0.35%の11.71%となった。

### 鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	2024/3末	2025/3末	2026/3末	2025/3末比 増減
①コア資本額	3,117	3,208	3,304	95
②リスクアセット	29,808	29,377	32,081	2,703
自己資本比率 (①÷②)	10.45%	10.92%	10.29%	▲ 0.63

	2024/3末	2025/3末	2026/3末	2025/3末比 増減
①コア資本額	3,120	3,182	3,301	119
②リスクアセット	28,811	27,991	28,184	192
自己資本比率 (①÷②)	10.83%	11.36%	11.71%	0.35%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG

#### 本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

TEL 096-326-5607